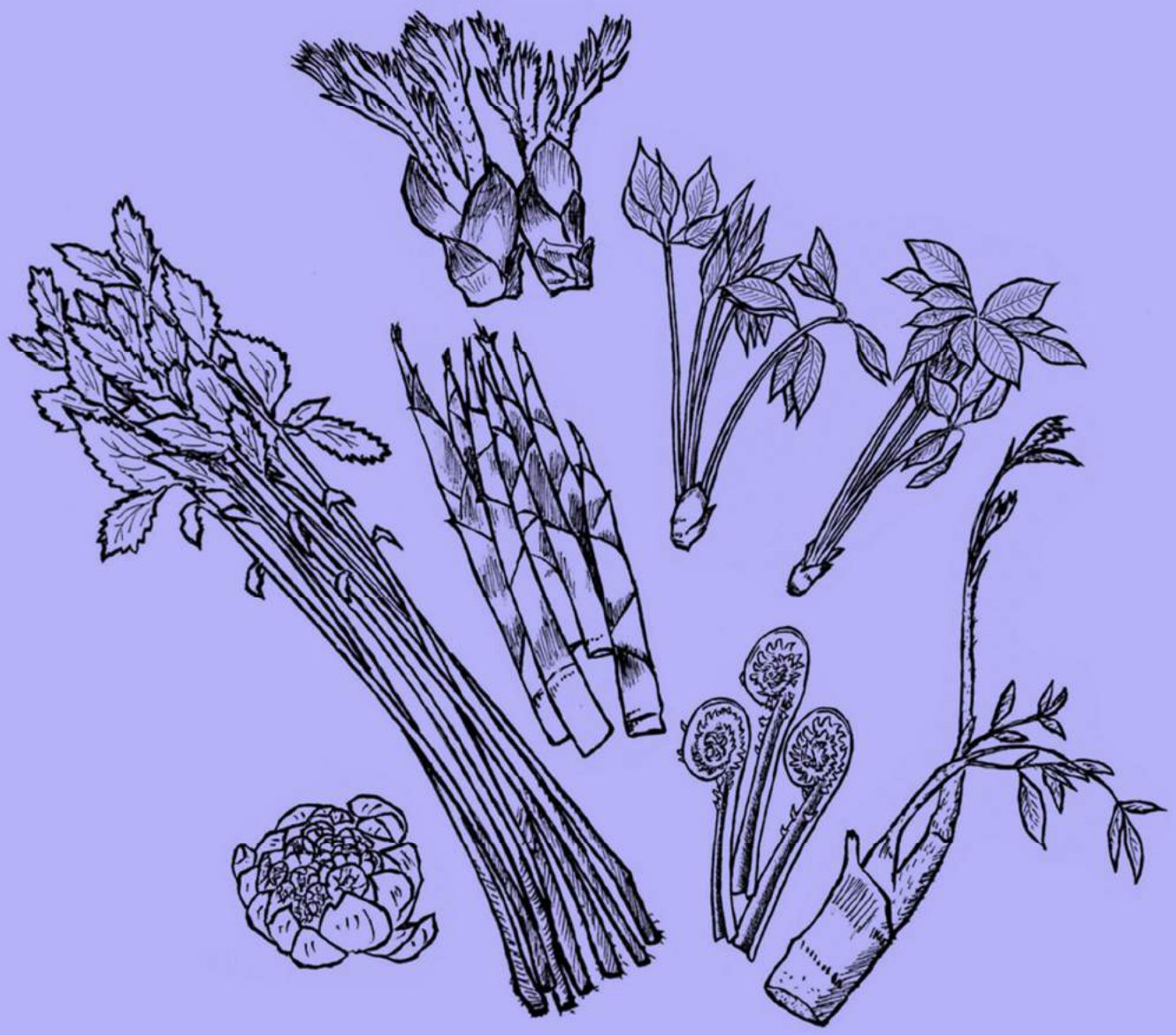
ぎんれい

71



巻 頭 言

古 川 進 一

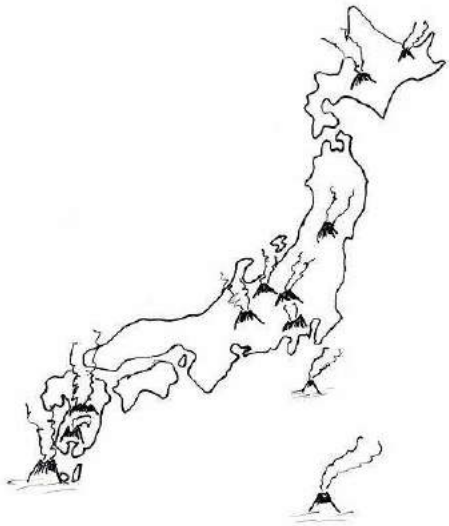
火山列島　日本の山

昨年多数の犠牲者を出した御嶽山、口永良部島の新岳、観光地で有名な箱根大涌谷、吾妻連峰の一切経山、小噴火を繰り返す浅間山と桜島、今でも噴火と溶岩を出し続けている海上火山の西之島・・・

日本列島が活動期に入っている火山帯の上に乗っているのです。火山の履歴のあるような山に登るときは、十分に警戒レベルを調べてください。山の難易度に差があってもいつも慎重に行動するようにお願いします。

天候の急激な変化にともなって山の様子は一変します。そのとき体調も大きく変化するでしょう。そのような事態が発生しても、強い意志を持って自己の判断で対処してください。山行でのアクシデントは多数の方々に迷惑をかけます。今後ともそのようなことがない様に自己責任の気持ちを強く持って登山をしてください。

（そして、この原稿を書いているとき、九州阿蘇山の中噴火があった）



目　　次

○　巻 頭 言　　古 川 進 一　1

○　山行報告

キノコ山行（菅名岳）	高 橋 充 夫	4
大林山（忘年山行）	水 野 照 雄	6
雲竜渓谷	井 上 里 美	7
スキー合宿（宝台樹ゲレンデスキー）	高 橋 充 夫	9
スキー合宿（スノーシュー）	佐久間 美智子	11
船形山（蛇ヶ岳）山スキー	高 橋　忠	13
蔵王（不忘山）	宮 崎　睦	15
守門岳（山スキー）	佐 藤　実	18
鳥海山	遠 藤 博 昭	20
祓川から鳥海山	内 田 章 子	22
岩トレ（御岩山）	高 橋 充 夫	24
懐かしの杢蔵山	内 田 章 子	25
高森川仏沢・烏川左俣（安達太良）	高 橋　忠	27
摺上川 滑谷沢	遠 藤 博 昭	30
奇遇な再会（早池峰山・岩手山）	宮 崎　睦	32
旭岳、美瑛、富良野	宮 内 健 治	36
夏山合宿、森吉山（秋田山）	佐久間 美智子	38
国見温泉とイワナ釣	水 野 照 雄	40
滝子山	佐 藤 健 一	42
ついに尺イワナを釣った（大行沢）	井 上 里 美	44
水無川源次郎沢	原 田 裕 之	45
山伏岳	高 橋 充 夫	46
個人的な意味づけをした山	小 山 田 泰 幸	48
フィールドワーク報告	小 林 恒 平	51

○　市民バス山行
第98回　荒船山　高橋恵美子　52
第99回　猫魔ヶ岳・雄国山　水野照雄　54

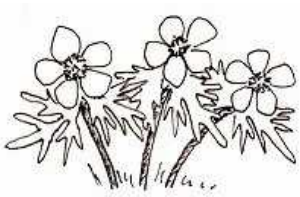
○　チーフリーダー記　宮崎　睦　56
○　銚子市山岳協会について　金井秀明　57

○　立原茂樹さんとの思い出　宮崎　睦　58

○　新人紹介　60
○　ホームページについて　60
○　表紙のことば　金井秀明　61
○　平成27年度役員　61

○　ふみあと　62

○　編集後記　64



キノコ山行（菅名岳）

髙 橋 充 夫

日　　程　　平成２６年１０月３１日～１１月１日
パーティ　　水野、宮崎、遠藤、高橋（忠）、内田、
高橋（恵）、髙橋（充）、他１名

前日の午後８時、小見川に集合し２台の車に分乗し出発。途中、阿賀野川PAにてテント泊。テントでは今回もほとんど眠れず、朝を迎えた。翌朝６時30分、菅名岳登山口に到着。熊出没注意の立て看板におののきながら登山開始。今回の参加者は皆、登山経験豊かな人ばかりで初心者は私一人という不安の中でのスタートとなった。10月の終わりということもあって肌寒い。思わず厚着をして登り始めたものの、序盤に急こう配の山道が続いたこともあってすぐに汗をかく始末。他の参加者が悠然としている中、自分自身の見通しの甘さがなんとも情けない。気を取り直してさらに上を目指して登る。今回はキノコ山行である。歩きながら食用となるキノコを探す山歩きである。キノコと言えばスーパーでパック詰めで売られている物という意識だった私にとって、山に自生しているキノコを採って食べるなど考えられないものだった。間違って毒キノコを食べてしまったら…と思うと一抹の不安を感じていた。しかし、経験者たちは「これは〇〇ダケかな」「これは〇〇に似ているが、食用ではない」と盛り上がっている。でも意外とキノコの生えている倒木が少ない。今回はどうやら条件が悪かったようだ。「虫が喰っているから大丈夫」などという珍回答も飛び出したが、結局、山を下りて、店で売られているキノコを買うことになった。私としては内心ホッとした成り行きであった。やれやれ…。

山頂から望む、水墨画のような風景

菅名岳の山頂は 909 メートル。標高としてはそれほどでもないが、薄く雲がかかった周囲の山々を眺めると、自分がここにいることが不思議に思えてくる。今年銀嶺山岳会に入会して、今回が４回目の登山である。少ない経験の中ではあるが、山のてっぺんに立つといつも清々しさと心の内が鎮められていくような感じがする。

今日の泊りは立派なロッジがあるキャンプ場である。目の前の大きな湖を周囲の山々が囲む、雰囲気の良い環境であった。店で買ってきた安心できるキノコを入れた味噌汁やうどんが今日の夕食である。山で食べる食事にしては豪華である。日本酒にウイスキー、ビールとお酒も各自が持ち寄っていた。これが楽しくて山に登っているのではないかと思えるほどである。次回は私も何かお酒を用意しなければと申し訳ない気持ちで恐縮しつつ今回もご馳走になった。キノコが採れなくても不満はない。これだけのご馳走と仲間に囲まれていれば十分である。前日の寝不足と今日の登山の疲れが重なって、宴途中でいつの間にかシュラフに潜り込んで寝てしまった。

翌朝は小雨が降っていた。雨の中、山に登ろうとの意見もあったが、今回は無理をせず、入浴施設に立ち寄って帰ることになった。どの山もそれぞれ趣があり、楽しみ方があるが、山に登るだけではなく、キノコを採る楽しみがあることを知った今回の山行であった。

大林山（忘年山行）

水 野 照 雄

日　　程　　平成２６年１１月２８日～３０日

パーティ　　佐藤、内田、宮崎、遠藤、高橋(忠)、水野

今年も忘年山行がやって来た。1 年過ぎるのが、年々速くなるような気がする。上信越道の東部湯の丸ＳＡで早朝から盗難防止の警笛が鳴る、まさかと思ったが、私の車であった。鍵が見つからないと慌てる内田さん、結局シュラフのなかにあった。

朝から雨が降っている。今日の登山は諦めて、小布施観光に行くことになった。
小布施の町は晩秋の風情で、観光客の姿もまばらでゆっくり見て回ることができた。残念だったのは北斎記念館が工事中で見られなかったことである。次の機会には、是非とも見に来たいと思う。小布施を後にして青木村にある大法寺の三重塔（国宝）を見て、沓掛温泉のかどや旅館に入る。

恒例の忘年会は登山の後にやるほうがよいのだが、温泉につかって温まった所でビールから始まり、午前様ギリギリまで楽しい時を過ごした。

翌日は雨も上がり、美人のおかみさんに送られて、大林山への登山口となる坂上トンネルへ向かう。トンネル手前の駐車スペースにはマイクロバスが止めてあり、運転手の人と話をする。高崎の山グループが先行して登っているようであった。立派なアカマツ林の道を登って八頭山への分岐を過ぎると道は山腹をトラバースするように続く。高低差はあまり無いがダラダラと歩いて、ようやく頂上への急登になる。頂上手前のピークで休憩する。頂上のあたりで人が数人歩いているのが見える。高崎のグループと思われる。

辿り着いた広々とした頂上には誰もおらず、貸し切りで寛げた。新雪をまとった北アルプスの峰々が良く見える。中腹に雲の帯が入っているので各ピークがその上に浮かぶように見える。槍穂高、鹿島槍、五竜等々を眺めながら、忠さんが用意してくれた白玉ぜんざいを食べる。口直しに抹茶の接待まであり、何とも幸せな気分を味わった。

記念写真を撮って、今年最後のピークを後にする。同じ道を戻って八頭山の分岐で休憩していたら、中学生の男の子が二人登って来た。我々とは違い生命力の躍動を感じる。下山路で誰かがかなり下の斜面にいる動物を見つける。黒っぽく見えるので熊かと思ったが、カモシカだった。
無事、今年最後の登山も終わった。あと何年登れるのだろうかとも思うが、皆さん元気だ。とりあえず来年の忘年山行を目指して歩いて行こうと思う。

コースタイム

３０日

坂上トンネル登山口	９：００
ぽんぽん平（八頭山分岐）	９：５０～１０：０５
前峰	１１：００～１１：１０
大林山	１１：２０～１２：００
ぽんぽん平	１３：０５～１３：１５
坂上トンネル登山口	１３：４５

雲 竜 渓 谷

井 上 里 美

日　　程　　平成２７年１月２９日
パーティ　　宮崎、高橋(忠)、井上

昨年夏の終わりから山に行けずにいましたが、日帰りで氷爆見物ということでしたので、初めて雲竜渓谷に行ってきました。

車をおいて林道を歩き始めるが、リーダーの話によれば前回に比べずいぶんと氷が少ないらしい。まあ、歩きやすくて良いけれど、はたして氷爆はできているのか心配になる。

二時間程歩いてやっと渓谷の入り口広場に着くと、皆ここで渓谷へ入る身支度をしている。私達もアイゼンを着け、川に入る急な斜面を慎重に下りる。やはり雪や氷が溶けてしまったらしく川の水量が多く、渡るのに苦労する。

平年より少ないとはいえ、両岸に氷柱が現れてくると、初めての私には素晴らしい氷の世界だ。美しいが「落ちてきたら・・・」と考えるとヘルメットがほしくなった。氷爆を登らなくともツァーの人達はみな被っている。大きな氷爆の裏に入れる道もあり、メンバーも行っていたが私は遠慮した。

正面にはるか上から落ちる氷爆があるが、氷が途切れて水の流れが見える。これが雲竜爆らしい。いつもならアイスクライミングの人達が沢山取りついているはず。
「見られなくて残念だけど、近いからまた来ればいいね。」などと言いながら帰路についた。

この冬一度だけのアイゼンを着けての歩きになってしまいましたが、やはり気持ちの良いものです。来年はもう少し歩けるよう頑張りたい。

スキー合宿（宝台樹ゲレンデスキーグループ）

髙 橋 充 夫

日　　程　　平成２７年２月１４日～１５日

パーティ　　佐藤、永井、関（現地合流）、髙橋（充）

小見川に前日の 13 日、午後 6 時に集合し、常磐道、北関東道、関越道をひた走る。今日は銀嶺山岳会の会員で、みなかみ町にお住いの関さんのお宅に泊めていただけることになっていた。聞けば、関さんは多芸の人、趣味の人で今は銚子を離れ、彼の地にお住まいだそうな。どんな人だろう。夜遅くにお邪魔しても快く受け入れてくれるとは…。ともあれ、今回はスキーである。山スキーではなくゲレンデで滑るスキーである。登山は初心者の私だが、スキーならば少しは…と思っていたので格別楽しみにしていた。昨年は大雪で散々だったことも車中で聞いていた。

関さんのお宅に到着。町場なのにあたりは雪が積もっている。明日のスキーへの期待感の高まりを感じつつ、まずは一杯とお酒をご馳走になる。奥さんの手料理に舌鼓を打ちながらスキー談義に花が咲く。そうこうしているうちに日付が変わる時刻となり、用意していただいた暖かな布団にくるまって眠りについた。翌朝目が覚めると、朝食の用意までしていただいていた。感謝、感謝である。スキーウェアに着替えて、出発。みなかみ町は温泉場としても有名で、文人墨客ゆかりの地でもあり、じっくり周れば様々楽しめそうだが、今は降りしきる雪の中を一路宝台樹へ。

普段よく行く裏磐梯のスキー場と違って、エリアが広い。ゲレンデマップを見ても自分がどこにいるのかよく分からない。宝台樹は名前はよく聞いてはいたが、初めて滑るスキー場なので関さんから離れないように必死でついていく。関さんは速い。あっという間に斜面を滑り降りて、我々を待ってくれている。70 を過ぎてこの体力。感心というより圧倒された一日であった。一日中雪が降り続いており、視界は今一つだったが、高度感もあり斜面構成も面白く、裏磐梯にはない充実感一杯の一日となった。

今日の泊りは、ゲレンデ真向いの道路を渡ってすぐの民宿『本家』である。ゲレンデと宿が隣接しているのもありがたい。宿で山スキーグループと合流し、それぞれの一日の情報交換をしつつ、お酒も入って心地よい疲れとともに眠りについた。

明けて 15 日、何と雪は一晩中降り続いていたようだった。そういえば、夜中にドスンという得体の知れない音が聞こえていた。あれは屋根に積もった雪が滑り落ちた音だったのだ。我々の車の上にも 1 メートルにもなろうかというほどの雪が積もっている。ゲレンデの方を見ても降りしきる雪で視界が悪そうなことは一目瞭然であった。…今日のスキーは中止が決定された。確かにスキーどころではない。まず、車を掘り起こさなければならない。道路に出るための通路を確保しなければならない。車の屋根に積もった雪を落とし、落とした雪を脇にどけて、ようやく車が動けるスペースが

できた。しかし、このまま帰ってはもったいない。途中の温泉に寄って行こうということになり、雪の中を車を走らせる。目指す温泉にたどり着いたが、このまま雪が降り続くと帰り道が心配になるため、一刻も早く山を下りようということになり引き返す。幹線道路まであと少しというところで、簡易チェーンでは歯が立たないほどの雪のために立ち往生している車に遭遇。ここで佐藤さんがスコップを取り出し救出に向かう。フットワークの良さに感心しきり。この間も雪は降り続き、ワイパーが大量の雪を払いのけるようになってきた。県道に出ても雪は降り続き、3 シーズン目のスタッドレスタイヤは車体を右に左にスリップさせながら、ようやく山を下りることができた。

大雪は何度も経験しているとはいえ、その場その場の状況判断が何より大切である。たらればは無意味だが、2 日目のスキーと温泉立ち寄りの中止は結果的に良かったと思う。あのまま山中にいたら楽しいスキーと悲惨なお疲れモードが同居する事態になっていたかもしれない。昨年のスキー合宿は大雪で渋滞し、スキー場にたどり着けなかったそうだ。今年はそれでも一日楽しく滑れた。今回はこれでよしとしよう。

スキー合宿（スノーシュー）
玉原高原 鹿俣山

佐 久 間 美 智 子

日　　程　　平成２７年２月１３日～１５日

パーティ　　水野、宮崎、内田、遠藤、高橋（忠）、佐久間

高橋恵美子さんの「行ける時に行きなさい」という言葉がいろいろな不安（スノーシューって何？　体力は大丈夫？）を上回り、参加を決めました。久しぶりの山、久しぶりのメンバーとの再開です。

１３日　　水野号、宮崎号の２台で小見川を２０：００出発。沼田の道の駅「白沢」で仮眠。内田さんと私は車を使わせてもらいました。

１４日　　曇空から雪もちらつく。玉原スキーパークの駐車場で鹿俣山へ行く支度。私はと言えば、スノーシュー、ストック、靴、スパッツ、ズボンと全部借り物。皆さんの優しさに包まれとてもあったかいんだからぁ。

６人で静かな銀世界を進む。雪は深く、ラッセルの連続。時折薄日も差し、ブナの木から雪が舞い降りる。「きれい」そして「遠くに来ているんだな」と感じる。ブナ平に着く頃は雪が止むことなく降るようになり、視界を悪い。「ここまで」ということになり、ラッセルして来た道を引き返す。お天気が良く、もっと前に進んだら歩けたかわからない私。メンバーには悪いが半分ホットしていた。ごめんなさい。

お昼は雪をしのげる屋根付きの建物で食事。運転やラッセルで疲れているだろうに、お湯を沸かし敷物や飲み物を勧めてくれる。

たまらなくうれしい。

１３：３０頃スキー場着。今日の宿「本家」に向かう。夜は、ゲレンデスキー班の４人と合流して、飲めや、語れやの二次会。場は盛り上がっているのだが私の睡魔もピーク。一足先におフトンへ。内田さんがいつ戻ったかもわからないほど熟睡。

１５日　朝食後、車に積もった雪かき。雪も降り続くので今日予定の雨呼山断念。温泉に行こうと向かったものの、雪の多さに「帰りに道路が閉鎖したら困る」ということで、温泉を目の前にして帰路につく。安全運転でありがとうございました。そしてお世話になりました。

雪に埋もれた車→

↓ 民宿「本家」前 全員で記念撮影

船形山(蛇ヶ岳)　山スキー

高 橋　忠

日　　程　　平成２７年３月１３日～１５日
パーティ　　宮崎、遠藤、高橋(忠)

小見川を１９時に出発して鶴巣ＰＡで仮眠。１４日朝、大和ＩＣで高速を降り除雪がしてある最終地点の旗坂水産試験場に到着。試験場前のスペースにはすでに４，５台の車が停まっていていっぱいである。少し戻ってみると神社の鳥居の前辺りに数台停めてある場所があり、そこに駐車することにした。船形山は昨年の山菜山行で来たところで、２回目であるが山スキーでは初めてである。遠藤さんは過去数回山スキーでここに来ているそうだ。駐車場から板を履き出発。旗坂キャンプ場を抜け、船形山登山口へ。登山口から山頂まで３０番から順に丸い番号札が木に取り付けてあるのだが、登山口の３０番は埋まって見えない。途中から小雪がぱらつき始めた。旗坂平を過ぎてから休息、さらに一群平を過ぎたさきで休息をとり、三光の宮へ。昨年の山菜山行の時には三光の宮を見ていないので、スキーを外して、三光の宮へ登ってみることにした。なかなか眺めが良かった。写真を撮ったりしてしばし過ごした後、再出発。

船形山を目指しているが、雪がだんだんとひどくなり、風も出てきて視界も悪くなってきたので船形山を諦め、蛇ヶ岳へコース変更することになった。さらに蛇ヶ岳の山頂が見える少し手前の平らなところで、蛇ヶ岳山頂も諦め、ここから滑り降りることにした。

蛇ヶ岳

三光の宮付近で休憩を取りなだらかで、とても滑りやすい斜面で山スキーを楽しみました。途中の登り返しが無ければ満点の山スキールートなのだが。

駐車場に到着してから、テントを張る場所を探す。最初、旗坂キャンプ場に張る予定であったが、荷を担いで行くにはちょっと大変だと言うので、車の周辺でテントを張ることに決定。道路左側の除雪した雪の壁を越えると、平らな良い場所があった。雪を踏み固め整地してテントを張る。近くに穴を掘り、仮設トイレを作る。ＰＡで買ってきたロースト牛タン、宮崎さんの特製もつ鍋で今夜もお酒が進む。

翌１５日は、昨日と打って変わって快晴。８時にテン場を出発、のんびりと周りの景色を見ながら登り、９５０m 付近（２２番の番号札がある辺り）でコーヒータイム。ここから一気に滑り降りる。今年最初の山スキー、存分に楽しめた。我々の山スキーシーズンの始まりだ。この後どこを滑ろうか、わくわくするぞ。帰りは、台ヶ森温泉で汗を流し帰宅した。

コースタイム

１４日

旗坂水産試験場出発　７：２２ － 旗坂キャンプ場　７：３５ － 旗坂平　８：１５ － 休息　８：３０～８：４０ － 一群平　８：４７ － 休息　９：３５～９：４５ － 三光の宮　１０：５０～１１：１０ － 蛇ヶ岳手前(1300m)　１２：１５～ － 滑降開始　１２：３０ － 休息 １３：３０～１４：００ － 水産試験場到着　１４：５５

１５日

水産試験場出発　８：００ － 休息　９：１５～９：３０ － 休息(950m)　１０：１５～１１：０５ － 水産試験場到着　１１：５５

蔵 王（不忘山）

宮 崎　睦

日　　程　　平成２７年３月２５日～２７日
パーティ　　宮崎、高橋(忠)

２５日

小見川役場を１９時に出発し、国見ＰＡにて車中泊とする。トラックの駐車場は満車で有ったが、平日のためか乗用車の駐車場方は空いていました。

トラックはエンジンを掛けたまま駐車しているので、寝ているとエンジン音がうるさくて、熟睡はできませんでした。

２６日

５時３０分頃に起床し、東北道の白石ＩＣで降り、コンビニで朝食を食べてから白石スキー場向かうと、途中の道路には積雪は無く、７時少し前に到着しました。

リフトの始発時間は、８時３０分との事であり、８時少し前から準備をしてチケット売り場に行くと、登山届の提出を求められたので、作成して有った届出書を提出し、チケットを購入。

回数券は２枚購入しなければゲレンデトップまで行くことができず、１日券はシーズンファイナルのため１４００円で、回数券との差額があまりないので、１日券を購入して、始発のリフト２本を乗り継いでゲレンデトップまで行くことになります。

ゲレンデトップからシールを着装し登り出すと、初めは藪が濃く薄い所を探しての登りです。

天候は晴れで風もそれほど無く、歩いていると暑くなってきます。雪は締まっているので潜る事も無く、途中からは先行者１名のトレースを活用させてもらいました。

先行者は１回目の休息の時（1260M）では見えていましたが、登るスピードが速いため視界の先に行ってしまいました。

尾根に出る少し前から、ツボ足やスノーシューの跡がアイスバーンとなり、シールも滑る様になったので、最後の５０M位はクート歩行に切り替えて、痩せ尾根の手前まで登りました。

痩せ尾根はアイスバーンになっていますが、先行者はスキーを着けたまま登って行った様です。

私の技量では、スキーを着けたまま登るのは不安ですし、ツボ足で山頂まで行っても、アイスバーンをアイゼン無しで下るのは、滑落の危険が有りそうなので、登るのを中止して下山することにしました。

滑り出しはアイスバーンのため、格好の悪い慎重な姿勢で下ります。アイスバーンを過ぎると、圧雪したゲレンデを滑っている様な雪質で、楽しい滑りを楽しむことができました。

1280Mでテイタイムを取ってから再び滑り出し、ゲレンデに出る最後の所は藪が濃く真直ぐには下れないので、トラバース気味に下りゲレンデに到着。

時間的にも早いので、上のリフトで４本滑って、１４時頃に駐車場に戻りましたが、ゲレンデの方は、標高が低くなるので気温も高くなり、雪質は悪くなっていました。

えぼしスキー場の手前にあるゆと森クラブで入浴し、毎年宿泊している公衆トイレの所にテントを張り、１７時頃から夕食としました。２人なので今一盛り上がりには欠けましたが、楽しいひと時でした。２０時前には２人共、持参の酒も飲みほし、疲れているため早々と就寝となりました。

２６日

今日も天気予報通り晴れで、後烏帽子岳や屏風岳が綺麗に望め、朝食後に支度をして、みやぎ蔵王えぼしスキー場に向かうに連れて、段々と風が強くなります。

スキー場の駐車場では、車が揺れるほどの強風となり、ゴンドラの運行も中止となり、登頂はできませんので、白石城を見学しウーメンを食べてから、帰路に着き１７時前に小見川に到着しました。

後烏帽子岳は、４年前に登った時は、風も無く良い天候で快適な滑りができましたが、それ以後の３年間は天候が悪くて登頂できない記録が続いています。

２６日

白石スキー場ゲレンデトップ	９：００
1260M	９：４０～９：５０
1500M	１０：２５～１０：４０
反転（1640M）	１１：２０～１１：４０
1280M	１１：５０～１２：２５
白石スキー場ゲレンデトップ	１２：５５

守 門 岳（山スキー）

佐 藤　實

日　　程　　平成２７年４月１５日～１７日

パーティ　　宮崎、高橋(忠)、水野、遠藤、佐藤

ここ数年、山は勿論山スキーもゲレンデも、諸事情が重なりめっきり行けなくなってしまった。日帰りのやさしい春スキーでもと思っていた矢先、宮崎さんが守門に行く計画があると言うので同行させてもらう事になりました。

前夜発仮眠の後、二分に着いたのは6:30頃だったか、除雪は例年と同じ所で終わっていた。天気も良好で早速山スキーの仕度を整え、西川沿いの開けた雪原をシールの感触を確かめながら歩き出す。

大平へ回り込む林道をカットして、スキーを外し石の小尾根に取り付く。長峰へは沢状から左に登って保久礼に向う。小屋着 10:00。ここは昔のままで、そろそろ快適な小屋にならないかと思う位古い。他のパーティも結構入って来る。

三角屋根の見えるキビタキ小屋周辺は、きれいなブナ林があり、守門の中では頂上直下の大斜面より楽しめる処です。

ブランクと歳の差はペースに現れ差は開くばかり。宮崎CLに「滑落や迷う所もないので先行して下さい」とお願いし、マイペースで登る。大斜面に出ると皆遥か彼方を行くのが見えた。結局頂上では、風の中30分位待たせてしまい、申し訳なく思う。稜線上は少し雲がかかり、忠さんの楽しみにしていた巨大雪庇も、もう落ちて見られませんでした。

雪質も程良くて、山スキーの醍醐味が始まる。忠さんは記録写真を撮りながら、宮崎さん水野さん遠藤さん、皆思い思いに大斜面を楽しんだ後は、ブナ林を縫う滑りに変り、いつもながらあっと言う間に保久礼の小屋に着く。

体力の消耗度は予想以上で、長峰への少しの登りで太腿がつり気味になった。忠さんも同じらしく、宮崎さんに「特効薬をもらう」と言うので、自分もこれ幸いとばかりに一緒に戴く事にする。何とか登り切ったものの魔法の薬がある訳もなく、少し滑っては休みを繰り返し下りて行く。

大平回りは帰りもカットで、直林道コースを選択。最後に雪の落ちた林道のノリ面をクリアで無事下山になるかと思われた。先頭の遠藤さんは雪をひろい、技ありで下り切る。宮崎さん忠さん水野さんは安全策を取り、スキーを外して手渡しを交え、やり過ごしていた。自分は見渡せるぎりぎりの所でそれを眺めていたが、足元のザラ目雪が崩れノリ面を4M程滑落。最悪の形で雪どけの泥にハマり、これ以上はない不様な姿となりました。

ここから先はスローダウンのルートで、川沿いの道を立滑りしながら敗残兵さなが

らの今を、思いめぐらしてみる。

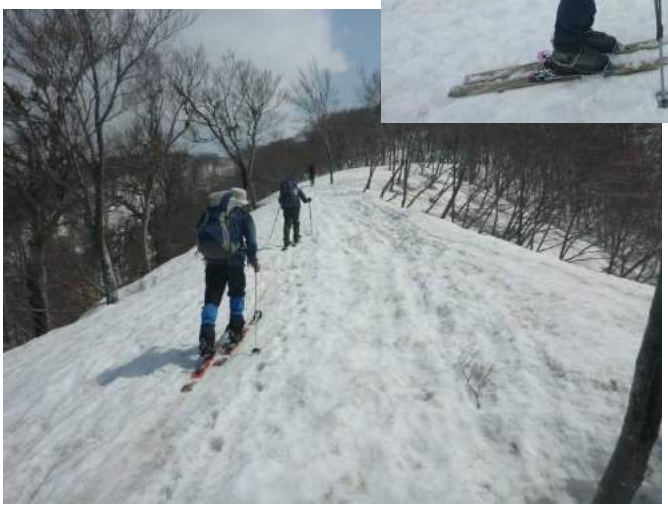
オールラウンドと書いた山の玉手箱も、気が付けば中味は空になり、残っていた山スキーカードも、いよいよ返上の時かと思う。それからもう一つ。箱の最後に残る物が、釣竿にはならないよう、頑張るか、と。

15:30、車に戻り温泉へ向う。宮崎さんの予定では、明日奥只見の道行山に登るとの事で、今日の夜は前回利用したと言う銀山平奥の市営駐車場にテントを設営する。途中で手に入れたふきのとうの天ぷらをごちそうになり、今日が終わる。

17 日、残雪のダム見学。秘境です。

朝は晴れていたが銀山平に向うと雲行きが悪くなり、山仕度が終る頃に雨が降り出し、道行山は急遽中止の決定が出た。自分には恵みの雨になりました。

その後は、長い長い銀山平のトンネルを通り街に戻る。道の駅に寄り温泉につかり、西福寺、開山堂にある石川雲蝶作、透かし彫の名作の数々を堪能して、帰途につきました。



鳥 海 山

遠 藤 博 昭

日　　程　　平成２７年４月２９日～５月２日

パーティ　　宮崎、水野、高橋(忠)、内田、遠藤

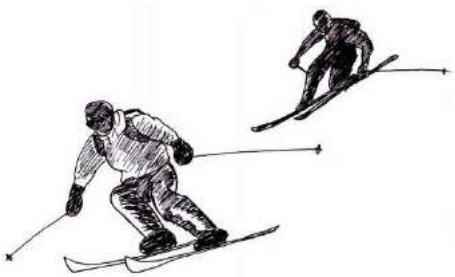
２９日夕方小見川を出発、東北道から山形道に入り、こちら方面でいつも利用している月山道の駅隣にあるくまげらセンターの駐車場にて仮眠する。

３０日５時半に起きて出発、庄内あさひのコンビニで朝食を済ませて高速へ乗り酒田方面に向かう。天気も良く遠くに見えていた鳥海山がだんだんと大きく見えてくる。残雪が輝いて綺麗に見える。今回の登山口は祓川なので日本海側から内陸部へ鳥海山を巻くように入っていく。田園風景の上に山が大きく見える、何とも言えない風景だ。ちょっと止まって景色を楽しむ。登るにつれ道路脇の雪が多くなってくる。上の駐車場まで除雪してあるのか心配になる。除雪の終わった土手には、ふきのとうが出ている、おいしそうな所をみんなで摘んで今夜のおかずにする。駐車場には９時１０分に着いた。客がいっぱい居りだいぶ賑わっている。山小屋は１００メートル先ぐらいに見える。とりあえず荷物をまとめ小屋へ向う。この分だと小屋は一杯かと思っていたが、日帰り客がほとんどで泊まりは我々のパーテイの他数人で２階の部屋の何処を使ってもいいそうで貸し切り状態でした。下に調理場が有りガスも鍋も自由に使っていいそうでなんとも有りがたい。２階で荷物を広げ、しばらく休憩。今日の予定は時間も遅くなっているので頂上は諦め上の避難小屋まで行ってみることにする。内田さんは自由にその辺散策すると言う事で、４人で出かける。１０時２０分出発、今年は雪解けが早いそうで一段上の辺りはブッシュが出ているところがあると聞いた。広い雪原をゆっくりと登っていく。天気は快晴ですぐ暑くなってくる。半袖になりたいが、日焼けがひどくなりそうで長袖１枚で頑張る。２段登った所で休憩、サングラスを外すと眩しい。ここから先は傾斜もきつくなり厳しくなってくる。左上の方に小屋の屋根が見える。大きくジグザグを切りながら登り、丁度１２時、七ツ釜小屋到着。中に入ると荒れていて休憩するのが精一杯だ。ここで湯を沸かしてコーヒータイム。後は滑り降りるだけだ。長めの休憩。１２時５０分、小屋を後に滑降開始、広い雪原で雪質も良く気持ちよく滑れる。滑り出したら早いもので、すぐに祓川小屋の１段上の所に来てしまった。勿体ないので無理に休憩を入れる。宮崎さんは気づかず行ってしまった。今さら戻ってこいとも言えず後姿を見送る。祓川の小屋１４時２０分到着。１５時頃から夕食の準備を始める。取ってきたふきのとうの天ぷらとたくさんの料理が２階の部屋に運ばれ、貸し切り状態の部屋できがねなく大いに盛り上がりました。

５月１日　内田さんに見送られ６時１５分出発。今日も快晴だ、頂上までくっきり見える。よその客も結構上がって来る。シールを付けている人、担いでいる人とまち

まちだ。今日も暑くて厳しい状況だ。体が慣れてきたのか昨日より早く七ツ釜小屋に着いたような気がする。ここで小休止。ここから上は隣の登山口から合流して来るので客が多くなって来る。よその客に追い越されるが、マイペースで登るしかない、頂上近くになると傾斜は益々きつくなって来る。見上げていると早くも滑り降りてくる人もいる。テレマークを入れて格好良く滑る人、気持ち良さそうだ。私はまだあと一頑張りだ。喘ぎながら登りようやく頂上直下に着きスキーを外す。上は人が一杯で大賑わいだ。七高山頂上到着１０時５０分。眺めは最高、日本海も見える。しばし景色を楽しむ。大休止後スキーを置いたところへ戻りシールを外して下山準備、下を見るとかなりの傾斜だ。転んだら３０メートルぐらいは落ちてしまうだろうなと思う。慎重に行かねばと気を引き締める。１１時５０分滑降開始、宮崎さん、忠さんガンガン滑っていく。上手くなったなと感心させられる。私は慎重に斜滑降を入れながらゆっくり滑る。直下のきつい所を過ぎると快適になって来る。雪質も良く最高の気分だ。思い思いに滑り降り、内田さんに出迎えられて無事到着。１４時５０分でした。天気も良く楽しいスキーになりました。皆さんご苦労様でした。
今日はこれから荷物をまとめ、遊佐の町にコテージが予約してあるのでそちらへ移動、ゆっくりお風呂に入り観光者になります。西浜コテージ１５時４０分到着。近くの温泉に入り、帰りにスーパーで買い出しをして今夜は焼き肉パーテイだ。またまた楽しい夜になりました。

５月２日、朝からまっすぐ帰るのも勿体無いので酒田の町を観光し、クラゲで有名な加茂水族館に立ち寄って来ました。ゴールデンウイーク中なので何処も人が多く、こみこみでした。水族館の方はもっと多くて中へ入ってもなかなか進まず、やっと動き出したと思ったら係員が立ち止まらず前に進んでくださいと案内している。ゆっくり見ている暇もなく、ところ天みたいに押し出されてしまいました。やっぱり人混みは苦手だと思いました。帰りの高速は渋滞もなくスムースに帰れました。皆さんご苦労様でした。



祓川から鳥海山

内 田 章 子

日　　程　平成２７年４月２９日～５月２日

パーティ　宮崎、遠藤 、水野、 高橋(忠)、内田

2 月以来の久しぶりの山。鳥海山はいろいろな登山口から登っているが矢島コースの祓川からは初めてだ。山スキー組の人達について行こうと思った一番の決めてになったのは、宮崎さんの「駐車場から小屋まで 100 ﾒｰﾄﾙだよ」だったかも知れない。月山道の駅で仮眠。

翌 30 日(木)、朝から快晴。鳥海山をぐるりと回るように祓川の駐車場に向かう。今日は祓川ヒュッテまでなので、気分的にのんびりしてしまう。雪をまとい裾野を広げた鳥海山の姿はいつ見ても美しい。鳥海山を背景に並んで記念写真を撮ったり、駐車場近くでは雪解けの下から出てきたフキノトウを摘んだり、登山口までの移動も楽しい。

祓川の駐車場はかなりの数の車だ。小屋もすぐそこに見えていて、荷物を整理することもなく、保冷ケースなど荷物はみんな小屋に持ち込み、部屋は窓から山が目の前に見える二階の部屋に決める。登って行く人、滑り下りて来る人がよく見える畳敷きの部屋は山小屋というより旅館のようだ。

休憩後、4 人は「様子見に」と早速、支度をして出掛けていく。私もみんなを窓から見送った後、スノーシューではなく、アイゼンをつけて後を追う。窓からみると、なだらかに見えた斜面もそばにいくとなかなかの傾斜だ。一定間隔につけられた竹の目印の近くを１時間程登り、頂上が見えるあたりの広い雪原でお昼にする。ヒュッテが下の方に見え、頂上が遥か上のほうに見える。辺りに人影はなく、何という開放感　。「みんなはどの辺りまでいったのかなぁ」など、想いにふけりながら、のんびりコーヒーを飲み、ヒュッテに戻ると程なく宮崎さんが一番先帰ってくる。

１階の調理場が自由に使えるのでフキノトウの天ぷらや水炊きの鍋など、出来たものを２階の部屋に運び、いつもの宴会？の始まり。平日で宿泊の人達が少なく２階は私達で使い放題だ。明日があるので宴会も早めに切り上げ、珍しく８時半には就寝。

５月１日(金)、４時起床。今日も無風快晴。6 時、登り出すところまで見送りに行き、揃って記念写真を撮った後、みんな張りきって出かける。「今日は七高山の山頂まで登って一気に滑り下りてくるのだろう」と、２階の窓から４人の姿が見えなくなるまでカメラで追い、余る程の時間をゆっくり使い片づけてから、昨日同様、気ままな一人の行動を開始する。今日は昨日より少し上の七ツ釜避難小屋の下辺りを、ほぼ水平移動で動く。真っ白な雪原を歩きまわる快感はたまらない。ましてや山全体がゲレンデのような所をスキーで滑り下りるみんなはどんなにか気持ちのいいことだろう。

一人ティータイムを満喫。上を見上げると山頂に向かう四つの点(多分メンバーの４人)を確認してヒュッテに戻る。

展望台の案内があるヒュッテ前から、山になっている雪を強引に登ってみると、その先は雪がすっかり溶けた登山道らしき道が続いている。進んで行くとミズバショウの咲く小さな池塘があり、行き止まりの所に真新しい立派な展望台が建てられていた。階段を上がると回りの柵もまだ未完成のままである。鳥海山がドーンと聳え、反対側の山々もよく見える。

11 時、展望台に着くのを待っていたかのように宮崎さんから「頂上に着いたよ」の電話と山頂からの写真がメールで届く。帰ってくる時間を見計らって部屋の窓から見ていると、1 時、ほぼ思った通りの時間に滑り下りて来る 4 人の姿が見えた。滑り下りるのはあっという間なので急ぎ迎えに行く。

宮崎さん、忠さん、遠藤さん、水野さんと続き、どの顔も満ち足りたニコニコ顔で迎える方も嬉しくなってしまう。「内田さんのお陰でいいお天気だったよ」なんて、お世辞まで言われて。

今夜はキャンプ場に隣接するコテージ泊まりだ。宮崎さんは『コテージ泊まり』などという、なまぬるい計画は立てないだろうと思いつつ、一言「コテージもあるようよ」に、即、予約をしてくれたのであった。鳥海山方面に来る度に、通っている見慣れた道を西浜キャンプ場へ向かう。スーパーで買い物をし、地酒を買い、コテージへ。こじんまりしたとても素敵なコテージだ。今夜は宮崎さんが焼き肉セットも持参してくれて、焼き肉パーティである。明日のために控えめにということもない宴会は、楽しいこと言うまでもない。

2 日(土)今日も朝から快晴。酒田の豪商、本間家旧邸やドラマ「おしん」の舞台になった山居倉庫、そしてクラゲで有名な鶴岡市加茂水族館を見学し、充実した 3 日間を終えて、帰途につく。

祓川ヒュッテと鳥海山

岩トレ(御岩山)

高 橋 充 夫

日　　程　　平成２７年５月１７日

パーティ　　宮崎、高橋(忠)、遠藤、高橋(充)

山の楽しみは実に奥が深い。ハイキング気分で登れる山から、まだ経験していないような重装備で登る山、沢、冬山……。今回は岩トレである。岩？　岩を登る？　テレビでなら見たことがあるあれか？　銀嶺の先輩諸氏から、登山をするなら一度経験しておいた方がいいよ、と勧められ参加することになった岩トレであった。車中、初めて聞くハーネスや下降器、三点支持といった用語に興味がわいていた。

朝から小雨が降っていたが、現地に到着するころには上がっていた。車を降り、山道を歩くことしばし。突然目の前に巨大な岩の壁が見えた。ほとんど垂直に近い。こんなところを登るのか。いや、登れるのか。

岩壁の下に到着。下から見上げるとやはり垂直である。まずは宮崎さんがお手本を見せてくれる。ハーネスを着け、ザイルを結んで登り始めた。下で遠藤さんがザイルを引いて急激に落下しないように確保している。なるほど。これなら落ちることはない。お互いの信頼感が岩壁登りの肝なのだ。自分の番が来た。落ちないようにしてくれているとはいえ、どこに手を掛け、どこに足を乗せるか、思うように登れない。手足の内、三点を岩壁に接地したまま、残る一点の手がかりがない。手がかりを探し、足を入れ替えようやく岩壁を登りきる。上から見ると、下で確保してくれている遠藤さんが見え、不思議と高さからくる恐怖感はなかった。次は懸垂下降である。ザイルを両手でつかみ、送り出しながら少しずつ降りていく。初めは岩壁から体を離せず、岩に膝をぶつけていたが、体を離すように下から声が飛んで、姿勢を整えて降りられるようになってきた。何回か登り降りするうちに、一本のザイルに体を託していても安心感に包まれ、気持ちよささえ感じるようになっていた。

今回体験したことは岩登りの初歩であり、回数をこなさないと実戦では到底使えないが、いつか、岩山を登り、さらなる充実感を味わってみたい、そう思える今回の岩トレであった。山の楽しみをまたひとつ知った貴重な体験であった。

懐かしの杢蔵山

内 田 章 子

日　　程　平成２７年６月６日～８日
パーティ　遠藤、水野、佐藤、宮崎、高橋(忠)、高橋(充)、
佐久間、内田

山菜山行は12年前に行った新庄の杢蔵山に決まる。
杢蔵山の登山口は思いもかけず車がいっぱい。地元の人達が登っているようで車の整理をしていた人の話だと、日帰りで70人程登っているという。

釣りをするため「渓谷遊歩道」と案内にある沢コースへ行く。上流、下流へとそれぞれ竿を持って出かけるが、あまり動きたくないので沢にも下りず、上の方から糸を垂らすと思いがけず小さいながらもイワナが釣れてしまった。

登山道に戻り、一の滝コースを行く。深い杉木立の中に豊作と家内安全を祈願して不動明王が祭られている。二の滝、三の滝を右手に見おくってと進み、渡渉地点に来て思い出す。12年前に来た時はここで釣りをしたことを。この先は次第に傾斜がきつくなり、「七曲がりの坂」「心臓破りの坂」と急坂が続く。12年も前だったから大丈夫だったのか、それとも辛かったことは忘れてしまったのか、小屋まで割と楽に登れたように思っていた。それでもウドやコシアブラを採りながらで今夜の食材もたまってきている。樹林帯もそろそろ抜け、空が見えるようになる頃、前を行く人達についていけなくなる。他の人達と同様、水野さんにも「先に行って・・・」と言うが、いつものように後について付き合ってくれる。申し訳ない気持ち。草原に出た辺りで、先に小屋に着いた忠さんが、駆け下りて迎えに来てくれた。私のザックを背負うとあっという間に登って行く。荷がないのは何と楽なことか、足取りもすっかり軽くなり、だんだん近くなってきた小屋のことを思うと足早になってしまう。いつもみんなにお世話になり本当にありがたいと思う。

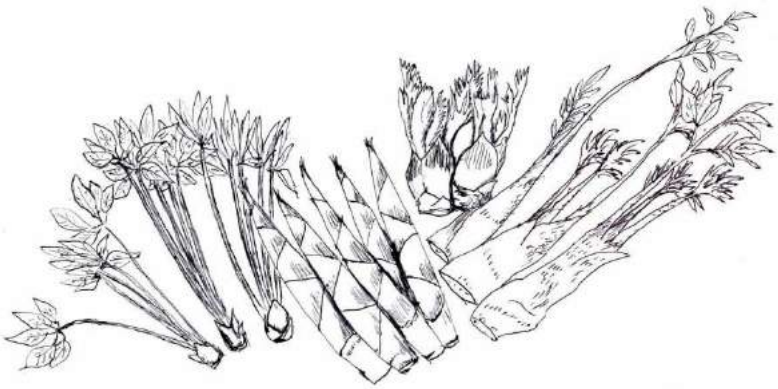
程なく懐かしい杢蔵小屋に着く。手入れの行き届いた板壁や床、ストーブと並べられた薪、食器戸棚もあの時のまま。忠さんが白玉入りのぜんざいを作ってくれた。
甘くて温かいぜんざいが疲れを癒してくれる。タケノコ採りや水汲み等終えて、採ってきた山菜をテーブルに広げて、みんなで一斉にそれぞれの料理別に下処理をする。

夕暮れが迫り、空が染まってきた頃、小屋から少し上がった前杢蔵山の展望台へ、登る。雲海の中に浮かぶ鳥海山の上にあかね色の笠雲がかかり、素晴らしい景色。
新庄の街もすぐ下に見え、田んぼの水がキラキラ光って本当にきれい。杢蔵山ってこんなにいい山だったの？　私も含め、この前一緒だったメンバーが口を揃えて「いい山の印象がない」「小屋以外あまり憶えていない」と言う。どうしてだろう。小屋が良過ぎたから？　それとも、やっぱり山はお天気によるのか？

小屋に戻り、いよいよ宴会の始まりだ。ウド、タケノコ、コシアブラの天婦羅、ウドの味噌和え、茹でタケノコのマヨネーズ和え、コシアブラとコンビーフの炒めものワラビのお浸し、イワナ汁、等々。どの山菜料理も本当においしい。ビール、ウイスキー、日本酒、梅酒、飲むほどに酔うほどに楽しい語らい。時が経つのも忘れて。

翌日は朝から快晴。水だけ持って杢蔵山山頂をピストン。頂上からは鳥海山とは反対側の山々も全部見えて素晴らしい風景だ。頂上から見える杢蔵小屋の赤い屋根が可愛らしく、改めて何度も来たいと思ういい山だ。

下りは登って来た道とは違う林道を行くことにする。NHK のテレビ塔が沢山建っている三角山を経由して、変化はないがおしゃべりをしながらの気楽な下りだある。三角山までは林道を車で入れるので、登れなくなっても杢蔵小屋までは行けるかも知れない・・・



高森川仏沢・烏川左俣（安達太良山域）

高 橋　忠

日　　程　　平成２７年６月２３日～２５日

パーティ　　宮崎、高橋（忠）

今年最初の沢登りである。山スキーが終わりあっという間に沢のシーズンになってしまった。スキーも沢も最初というのは少し不安で緊張する。小見川を２０時に出発して三春ＰＡで仮眠。２４日、箕輪スキー場到着(5:48)。路肩に駐車して、沢装備で出発(6:15)。国道１１５号の下をくぐり、ホテル手前で踏み跡を右の方に降りていくと間もなく仏沢出合に着く。ここからどうやら左俣の方に行ってしまったらしく何度か往復して、約１時間位時間をロスしてしまった。右俣に入り少しするとホテルの取水堰があった。小滝やナメ滝が続き、明るい沢で難しいところもなく、楽に登れる沢だ。途中休憩を兼ねイワナ釣りを楽しみ、今夜のおかずをゲットする。上部の方には２００m近くの長い傾斜のあるナメが続く。急な勾配ではないが決して侮れない傾斜である。チェックストーン岩を越えた辺りから木が沢に被さってきてプチやぶ漕ぎ状態になる。いよいよこの沢で一番大変なやぶ漕ぎの開始だ(13:03)。背丈ほどある笹をかき分け進むとすぐ箕輪山の稜線が見える。やぶ漕ぎと思ったがどうやらこれでも支沢のなからしい。やぶは更にシャクナゲとハイマツの密集地帯となり、重いザックを担いで横に伸びる枝を跨いだり、膝をついてくぐったりで体力も消耗する。箕輪山と鉄山の間のコルを目指して進むが、なかなか稜線が近づかない。悪戦苦闘すること１時間１３分。やっと登山道に出た(14:16)。天国に着いたような気分だ。沢靴から登山靴に履き替えて、鉄山避難小屋を背に箕輪山山頂を目指す。箕輪山山頂は秋元湖や安達太良の山々と３６

０°展望が良い(15:05～15:15)。ここから眼下に箕輪スキー場のゲレンデを見ながらの下山となる。下山道は、急で荒れており、粘土質の土が濡れていて滑る。やぶ漕ぎもそうであったが、目指しているところがずっと見えていてなかなか近づかないというのは結構きついものだ。やっと箕輪スキー場の駐車地点に到着(17:00)。森の旅亭「マウント磐梯」で入浴して、今夜のテン場、あだたら高原キャンプ場に向かう。キャンプ場に着くと(18:27)、バイクツーリングしている中年のおっさんが一人テントを張っていた。広い草原の真ん中に炊事棟があり、我々はそのすぐ側にテントを張り、食事は炊事場のなかですることにした。釣ってきたイワナを焼いたり唐揚げにして、乾杯した時はもう１９時半になっていた。こんなに歩いたのは久しぶりで、かなり疲れている。明日は烏川左俣から安達太良山へ登る予定だが体が持つかちょっと不安だと思いながら深い眠りにつく。

翌２５日、朝目が醒めると霧雨が降っている。内心中止だ、バンザイと思っていたが、朝食が終わった５時少し過ぎた頃には回復してきた。で、とりあえず行ってみようと。･･･あだたら高原スキー場をから元気で出発(6:50)。烏川橋の脇から入渓(7:30)。しばらく行くと湯桶が沢の上を横切っている。源泉を引いているのだそうだ。昨日同様、小滝やナメ滝が続き、平凡な沢だが、左俣大滝(高さ４０m×長さ８０m)が見えるとちょっと感動する(9:53)。ここは階段状になっていてなんなく登れる。この先はまたやぶ沢になってくる。やぶ漕ぎに突入して(11:50)、３０分くらいで仙女平分岐付近の登山道に出る(12:20)。昨日に比べたらなんと楽なことか。登山靴に履き替えて,安達太良山へ向かうと、何人もの登山者とすれ違う。ロープウェイの山頂駅のある薬師岳が見える。やがて前方正面にぽっかりと乳首（安達太良山の別名）が見えてきた。

半円状の丸い山頂だ。ちょっと色っぽい（エロっぽい)、なんか元気が出てきたぞ。あ

と少しだ頑張れ。なぜか山頂標識のあるところは乳首の下の広場の所だ。一人男性が上から降りてくる。山頂に到着(13:32)して辺りを見渡すとすると３６０°のパノラマが広がる。他の登山者も見えない。皆すでに下山してしまったか。山頂二人〆だ。とても気持ちがいい。正面(西側)に船明神山、障子ヶ岩、沼ノ平、右手(北側)に鉄山、箕輪山、そして左手(南側)に和尚山といった山々を３０分近く眺めていた。山頂から降り、峰の辻入口に向かっていると１５～６人の団体がやってきた、どうやらツアーのようだ。ほとんどがおばちゃんだが元気がいい。さすが百名山、登山者が多いと感心しながら、峰の辻へ。その後、くろがね小屋経由を止めて、籠山の脇を通り勢至平へと向かう。くろがね小屋へ続く通称馬車道に出て(15:14)から、馬車道、旧道と何度か繰り返し、烏川橋(16:13)、駐車場(16:29)へと戻った。下山後、岳の湯で汗を流し(数秒しか入っていられない熱湯の温泉でした)、帰宅した。

安達太良山も箕輪山も初めてであり、沢登り、イワナ釣りと、疲れたけれどとても楽しい山行でした。

摺上川　滑谷沢

遠 藤 博 昭

日　　程　　平成２７年７月２日～５日

パーティ　　宮崎、高橋(忠)、遠藤

２日　２０時小見川出発､梅雨の合間に天気の続きそうな所を狙って出かけました。去年９月に行った所で、釣りと沢が楽しめるコースだ。

３日　福島飯坂インターで高速を降り米沢方面へ、東栗子トンネルの脇へ車を止める。ここで準備をして６時５０分出発。相変わらず高速道路の工事中で道路わきの足場パイプで出来た階段を上る。高速のトンネル工事でまだまだかかりそうだ。荒れた林道を歩いていく。草が伸び放題で歩きにくい。少し行くと軽トラが止まっており誰か草刈りをしている様だ。旧街道で米沢へ抜ける道、保存会があるみたいだ。二ツ小屋トンネル７時４０分着、前来た時より早く着いた。１時間はかかったと思ったが、ここで小休止｡この暗いトンネルを抜けて下っていくと烏川へ掛かる朽ちた橋に出る。ここで沢靴に履き替え入渓８時３５分。梅雨時でもあり水量が多いかと思ったが去年とあまり変わらず大したことはない、ここから滑谷沢出合まで下りそこが今日のテン場です。下るにつれ魚影が走る。はやる気持ちを抑えながら下っていくと、２時間ぐらいで大きな釜の上に出る。ここを巻いて降り、荷を置いて釣りを始める。ググッとくる感触、たまらないです。その後いいポイントで竿を出しながら降りて行く。テン場到着１３時３０分。テント設営後大休止。その後３人で薪を集め焚き火の準備をする。夕方になってまた釣りをする。充分な量を確保し夕食の準備、焚き火を囲んで飲む酒はとても美味しいものです。それにイワナの刺し身、塩焼き、唐揚げ etc とイワナづくしです。楽しい夜で寝るのがもったいないくらいです。

４日　朝食の準備をしていると何やら怪しい天気｡雨模様だ｡ポツポツ降って来る。このまま滑谷沢を遡行し沢でもう１泊する予定だが、雨がひどくなると焚き火もできなくなる。協議の結果、昨日来た烏川を遡行し車に戻って雨の心配がない大日杉の小屋へ泊まろうと言う事になった。テント撤収後８時に出発。途中休憩中に釣りながら遡行し、今夜のおかずにとヌカ漬けにして持ち帰る。昨日入渓した橋には１０時５０分、車には１２時１５分に着いた。ここから移動、米沢の町を抜け飯豊の登山口大日杉へ向かう。登山口駐車場には車がけっこう止まっている。荷物をまとめ小屋へ行くと泊り客は誰もおらず管理人一人だった。素泊まり一人１５００円だそうだ。荷物を広げ一服し、夜にはまだ早いので下の川へ釣りに出かける。さすが飯豊の川で水量も多く川幅も広い、水も冷たく竿を出しても当たりがない。少し粘ったが釣れそうにない。あきらめて小屋へ戻る。テーブルを出して夕食の準備、薪ストーブがあったので管理人に聞いてみると、焚いてもいいですと言うので早速火をつける。２階にマット

を広げ寝床を確保し、広い部屋で３人、きがねなく飲み会が始まりました。今夜も楽しい夜になりました。

５日　ちょっと飲みすぎたか頭がすぐれない。すぐに起きられず遅い朝になる。今日は帰るだけ、少し甘えてしまいました。朝食後周りを散策してから帰路に着く。途中飯豊の白川荘で温泉につかり、喜多方へ抜けて山都のそばを食べて帰ってきました。

焚き火を囲んで
　イワナの串焼き

奇遇な再会（早池峰山・岩手山）

宮 崎　睦

日　　程　　平成２７年７月１２日～１５日
パーティ　　宮崎、他３名

元職場の先輩で有った渡辺さんから、岩手県の山に行かないかとの誘いが有りました。

渡辺さんは勝浦市出身の方で、中学校の同窓会で花巻市在住の同級生の女性と再会した折に、趣味が登山で岩手の山を案内するので、空いている自宅の離れに宿泊もしながら友人と来て下さい、との話があったそうです。

そういう事があり、私を誘ってくれました。その女性（百濟さん）は、岩手県で教員をしていましたが、今は定年退職した方だそうです。

花巻市近くのメジャーな山といえば、早池峰山と岩手山ですが、渡辺さんは登山初心者で岩手の山は行ったことは無く、私は一度登った山ですが花も綺麗な山ですし、良い山は再度行っても楽しいので行くことに決めました。

その後、以前早池峰山に行った時に出会った女性の記憶を思い出し、山行記録を見ました。

２００５年７月９日に早池峰山へ元会員の遠藤（小見川）さん、才賀さん、遠藤さんの友人の西田さんの４名で行った時、花のシーズンで土曜日のためマイカー規制が有り、登山口までシャトルバスに乗車した時の事を思いだしました。

車内で隣となった女性が、私たち４名の会話を聞いて千葉弁が懐かしいと話しかけてきたのですが、房州の生まれで岩手で教員をしており、岩手ではなかなか聞けない生まれ故郷の千葉弁が懐かしかった、との会話を思い出しました。

房州生まれで岩手県で教員をしていた人はほとんどいないと思えるので、もしかすると、というよりも、話した方は百濟さんだろうと思いました。

１２日

千葉市から渡辺さんに迎えに来てもらい、自宅を１４時過ぎに渡辺さんの車で出発、いつもの様に茨城空港北ＩＣから高速に乗り常磐道から仙台経由で前沢ＰＡに２１時頃に到着し、キャンピングカー仕様のハイエースに車中泊。

１３日

花巻南ＩＣで降り、コンビニで朝食を取る。百濟さんの自宅は花巻駅の近くの閑静な住宅地で、早朝からお邪魔するのも失礼と思いましたが、今日は早池峰山に行く予定なので、６時４０分頃には到着してしまいました。

自宅で話をすると、やはり１０年前にシャトルバスの中で会話をしたのを百濟さんも覚えており、こんな偶然が重なる事も有るのかと皆驚きでした。

今日は、百濟さんの旦那さんは都合が悪く一緒には登れないため、早池峰山は３名での登山となりました。

百濟さんの案内で、花巻農業高校内にある宮沢賢治の住まいを右に見て、早池峰山登山口の河原坊へと向かいます。

駐車場は月曜日ですが１０台以上駐車しており、やはり花の季節のため人気の山です。

最初は百濟さんがトップで登ると、マラソン大会にも出場している方なのでペースが早く、このままついて行くとバテそうなので、途中から私がトップで登らせてもらいペースダウンで登ります。

沢沿いの登山道は、蛇紋岩で滑りやすい道で、晴れて暑い日でしたが、沢沿いのためか風が吹いて気持ち良く歩けました。

沢が終わる頃から花が多くなり、ハヤチネウスユキソウも見られるようになり、山頂手前で休息を取ってから山頂に到着。

花は前回に来た時の方が多かった印象が有りました。前回は雨で眺望無しでしたが、今年の東北地方は入梅しても晴れている日が多いで、周囲の山々も眺望でき天候に恵まれました。

山頂の避難小屋で昼食を取り小田越に下山しましたが、登山者が少ないため、梯子の所も少し待っただけで、渋滞にならずに降りることができました。

小田越から河原坊までの舗装道路歩きは、距離は短いのですが、単調で永く感じられる道のりでした。

百濟宅に帰宅し、入浴後に食事をいただき、明日の打ち合わせをしてから隣の別棟にて就寝。

１４日

６時３０分発で、岩手山の焼走登山口に百濟夫婦との計４名で向かうと、台風１１号の影響も有るのか、昨日より雲が多くなり風も強い天候です。

登山口から山頂を見るとガスで覆われています。天候は良くなく、風も強くなるので、山頂までは行けないと思いました。

樹林帯の中を第１噴出口跡まで続く道は、段々と傾斜がきつくなり、第１噴出口跡

から先のコマクサが有る所は、溶岩土で踏込が効かない登山道で、富士山の登山道と同じ様な道です。

登山道脇のコマクサの開花は最盛期で、以前来た時よりも素晴らしく、シラネ葵の開花は終わってしまい見られなかったのは残念ですが、見事なコマクサの大群生を見ることができ幸運です。

登るに連れて徐々に天候も悪化していき、下山してくる者から山頂付近の様子を聞くと、雨と強風のため皆山頂までは行っていない状況で、私たちも平笠不動避難小屋まで行き引き返す予定としました。

平笠不動避難小屋まで行くと、雨風が強く視界も殆んどない状況になりましたので、小屋内で休息をし、ツルハシ分かれまでの下山は合羽を着用です。

関西から来た２人の年輩女性は、避難小屋に荷物を置きガイドと山頂を目指していきましたが、ガイドもお客の要望を聞かなければならず、大変な職業であると改めて思いました。

第１噴出口跡からの樹林帯歩きは、駐車場まで到着するのが永く感じられた下りでした。

駐車場から直ぐの所にある焼走の湯で入浴し、花巻まで帰る途中で金井さんに下山報告のメールをすると、岩手と同じく銚子も暑いとの返信が有りました。

本日も、百濟宅で夕食をいただき、自家製のワインまでご馳走になってしまいました。

１５日

近くにある高校野球で有名な花巻南高付近を散歩してから、４人で朝食を食べた後に、ご主人は岩手県の選挙管理委員の会議が盛岡市で有るため先に出かけました。

奥さんの案内で宮沢賢治記念館を見学し、昼食はご主人の会議が終了したので、４名で花巻市内の蕎麦店でとりました。昼食後に、我々はそのまま花巻南ＩＣから高速に乗り帰路に着きました。

山に行った時に、クライミングをしている人など他の山岳会の人と会う事が時々は有りますが、今回は、このような偶然の重なり合いによる再会となり、楽しい山行となりました。

百濟さんご夫妻には大変な歓迎を受け、お世話になり感謝しております。また、百濟さんの息子さんは、新規に営農し隣町の柴波町でブドウ園を経営しています。

後日、百濟さんのブドウを食べましたが美味しかったです。今年の販売は終了したようですが、Ａｋａｌａ　ＦＡＲＭを検索すると、ブドウ園の状況が分かります。

１３日

河原坊	９：００
休息	９：４５～９：５５
〃	１０：５０～１１：１０
〃	１２：１０～１２：２０
早池峰山々頂	１２：４０～１３：３０
休息１回	
小田越	１５：２０
河原坊	１５：５５

１４日

焼走登山口	７：４５
休息	８：５０～９：００
第１噴出口跡	９：３０～９：４０
ツルハシ分かれ	１１：０５～１１：１５
平笠不動避難小屋	１２：１５～１３：０５
ツルハシ分かれ	１３：４５～１３：５０
第１噴出口跡	１４：１５～１４：２５
焼走登山口	１６：００

旭岳、美瑛、富良野

宮 内 健 治

日　　程　　平成２７年７月１４日～１８日
パーティ　　宮内、他１名

・７月１４日

成田空港にて、９時過ぎの飛行機で新千歳空港に向かう。新千歳空港から特急電車（カムイ）に乗り換えて旭川駅まで（２時間）さらに旭川温泉までバスで１時間３０分。バスを降りた所の目の前が今夜泊まる湯駒荘の一軒宿である。早速お風呂に入ると源泉掛流し浴槽が１３箇所ほど有り、ここの温泉の温度が私には丁度良い。何度も入った。夜の食事も美味しかった。

明日の登山の支度をして、眠りました。

・７月１５日

目が覚めると雨と大風で登山口に行くロープウエイが運行中止。なので今日は登山を中止した。予備日数を見てあるので明日登ることにした。

・７月１６日

今日は快晴､風もなく登山日和｡すぐに支度をして一番乗りでロープウエイに乗り、姿見駅を出ると周辺の遊歩道への道が色々ある。山に向かって一番右側のコースが姿見ノ池に直行するのでここのコースを選んだ｡この辺一帯は高山植物群落が見られる。正面には噴煙をあげる旭岳の勇姿が見える。この先の登山道は火山灰と火山礫の連続で歩きにくい。登るにしたがって展望が開けてくる。右手前方向にトムラウシがギザギザと特徴のある頂きを見せている。その右後ろは十勝連峰が青々と影になりかすかに見える。やがて登りがだんだん急になり火山礫も大きくなってきた。

突然携帯電話が鳴った、銚子の友人からの電話で１５分ぐらい話をしていたら妻がどんどん上に登って見えなくなってしまった。すぐに追いかけたが息が切れてなかなか追いつけない。だいぶ体力が落ちたのがわかる。頂上直前まで来ると金庫岩という四角い巨岩があった。ここを通ると風が出てきて寒くなった。ヤッケを着て少し歩くと丸く広い旭岳の頂上には十数人の登山者がいた。山頂からの展望は表大雪の山々全域がほぼ見通すことができる。昼食用に、ロープウエイの駅で買ったサンドイッチを食べて下山する。

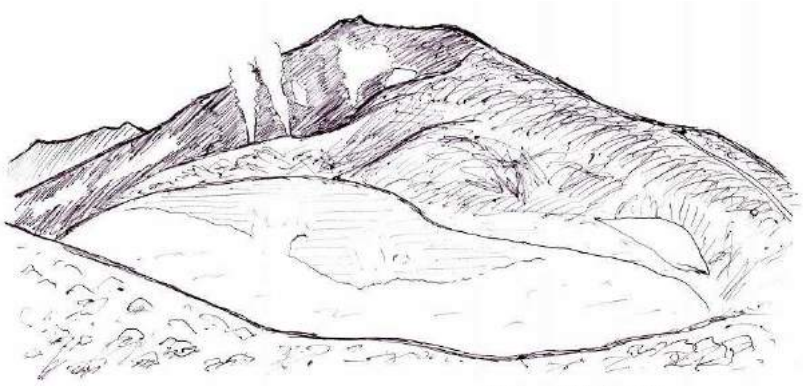
下山後、バス発車の時間待ちをしていると、タクシー運転手が声をかけてきた。旭川から客を乗せ、降ろして帰るから湯駒荘まで２人で５百円で乗せて行きますよと言ってくれて、これはラッキー歩かなくてすんでしまった。今夜は３日目の食事、毎回違うお料理でとても美味しかった。暖炉に薪が燃えていて火を見ながらぼーっとしているのも気持ちが良いものです。

・７月１７日

天気晴れ、宿を後にバスで旭川の町に向かう。駅前のホテルにチェックインして先に荷物を置いて街中をブラブラ散策する。夕方居酒屋を見つけ、どこも満員で一時間待った後、やっと入れた。北海道の美味しい食事に満足でした。

・７月１８日

天気晴れ、今日は予約してある個人タクシーで美瑛と富良野を運転手任せで午前９時から午後４時ぐらいまで案内をしてもらいました。最後に十勝連峰が見える望岳台に行き噴煙を上げる十勝岳を見た。帰りは旭川駅から新千歳空港そして成田空港、自宅に午後１２時過ぎに到着。



旭岳　姿見の池

夏山合宿、森吉山(秋田山)

佐 久 間 美 智 子

日　　程　平成２７年８月６日～９日
パーティ　水野、宮崎、内田、佐藤、遠藤、高橋(忠)、
井上、高橋(充)、佐久間

6 日　いつものように小見川を 20:00 出発。
長者原ＰＡで仮眠。

7 日　10:30　イワナ釣りをするノロ川に到着。
皆ワクワクしている様子だが、私は初めてなので緊張している。
佐藤さんに釣竿をお借りし、指導までしてもらう。
イワナがいそうなポイント、エサの流し方を教わる。佐藤さんが投げると恰好よく決まるが、私は無様…。
ぶどう虫をなんとかつけたが、石の下に針が引っ掛かり抜けない。木の枝に針が引っ掛かり手が届かない、の連続。何度も「しまった!」と思い、顔がこわばった。イワナを釣るというより、ぶどう虫を救出している時間の方が長かった。もし私がイワナだったら、こんなナヨナヨした釣り糸には見向きもせず、「アッカンベー」と笑いながら絶対泳いで行ってしまう。
先生は一流だったが、生徒が不器用すぎた。佐藤さん、ごめんなさい。
竿が無事なうちに終わりにして、皆の様子を見る。堂々たる釣り人だ。
釣りにはセンスと自信が必要だと悟った。第一回の私の収穫はもちろんゼロ。
14:00 すぎにイワナ釣り終了。皆もいつもより釣れなかったようだ。晴天続きで水量が少なかったのが原因？
15:20　今日宿泊の妖精の森キャンプ場のバンガローに着く。
夕食はイワナの唐揚げ、ノロ川で収穫してきたキノコ炒め(名前は忘れてしまいました)も並び、川や山の幸にごちそうさま。もちろん釣り上げてくれた人にもごちそうさま。

8 日　6:00 こめつが山荘から森吉山に登る。道中、たくさんの花が目を楽しませてくれる。白、ピンク、オレンジ、黄、赤、青、紫…、花の色の多さに驚く。
森吉神社の鳥居や冠岩(神社の御神体)を見て、信仰の山だというのがうなづける。自然と手を合わせ、守ってもらいたくなる。
阿仁避難小屋では、高橋(忠)さんからキュウリの浅漬け丸ごと 1 本が配られ、夏を感じながらほおばる。おいしい。忠さんのリュックはドラえもんのポケ

ットと同じらしい。
10:00　森吉山頂着。他に登山者はなく、山頂を貸し切り、記念写真を撮る。
遠藤さんのパナマ帽にサングラス姿は決まっていて、うらやましい。
時間と共に登山者も増えて、山頂も賑やかになってきた。
10:40　同じルートを下山。
14:30　国民宿舎「森吉山荘」で入浴。お昼のお風呂をゆったり楽しむ。
バンガローに戻り、佐藤さん差し入れのスイカをごちそうになる。甘～い。
童心にかえり、種をプップッと飛ばすおじさん、おばさん達。残念にことに高橋(充)さんはウリ系が苦手ということで食べられなかった。
その後、佐藤さんと井上さんはイワナ釣り。おかげさまで今夜もイワナの唐揚げをいただくことができ、二人に感謝。夕食作りは内田さんを中心に、サラダ、炒め物がどんどん出来あがる。まさにお母さん。そしてみんなの話しを楽しそうに聞きながらまとめてくれる水野さんはお父さん。
「明日は帰るだけだから今夜は飲むぞ！」と誰も言わないが、笑顔から伝わってくる。タフです。

9日　　バンガローの炊事場で見つけた赤いタマゴ型のキノコ。キノコ博士の井上さんによれば食べられるらしい。
宮崎さんがイワナをさばく時に使っていた出刃包丁が欲しくて、西根鍛冶店に寄ってもらう。宮崎さんのように使いこなせればいいが、同じ包丁が手に入って満足。井上さんは畑用に鍬を買う。
その後、山で出会った地元の方に教えていただいた伝承館と異人館を見学して帰路に着く。山だけでなく、釣り、観光もするなんて、贅沢な山行でした。
（余談ですが、私はハマグリふみが得意でワクワクする）

国見温泉とイワナ釣

水 野 照 雄

日　　程　　平成２７年８月２５日～２８日

パーティ　　宮崎、遠藤、高橋(忠)、水野

八幡平大深沢の東又沢に入る予定であったが、到着した登山口では霧雨が降っていた。雨雲の中に入っている感じで出発する気になれない。雨の中藪漕ぎをするほどの元気もないし、さてどうしようということになり、去年泊まって良い印象だった国見温泉に行くことに決め、移動する。

国見温泉へ行く少し手前にある道の駅(雫石あねっこ)で食糧を補充し、遠藤、忠コンビが釣の情報を仕入れに行く。近くで工事をしている人で、かなり詳しい人に出会えたようで、明日の目標の沢が決まった。国見温泉森山荘のロッジ駒草は手作り感あふれる素朴な建物で山の宿によく似合う。（去年も２泊している）

ロッジに荷物を運び込み、コーヒーを飲んで一服し、下の沢（竜川上流）へ釣りに行く。今まで３度入っているが時間に追われていたので、あまり上流までは行っていない。今回はたっぷり時間があり、かなり上流まで釣り上った。宮崎さんの尺を筆頭に晩のおかずには十分な釣果があった。15 時頃には宿に戻り、緑色の薬湯に入り冷えた体を温める。宮崎シェフの料理を少し手伝う。岩魚尽くしの料理は、やはりうまい。夜になるとかなり冷え込み、ファンヒーターをつける。明日は沢でテント泊まりの予定であったが、この寒さと雨で焚火もできるかどうか怪しいし、何より私の装備が真夏モードで、とてもテン泊には耐えられそうもない、泣きを入れて沢は日帰りとし、国見温泉にもう１泊する事にしてもらった。

翌日は雨も上がって、時々陽も差し、まあまあの天気であった。荒沢橋から荒沢に入渓する。雨の後で水量が多い。大岩が連続する渓相で這い上がったり、這い下りたりが多く、結構疲れる、渡渉もそれなりに面白く楽しい沢歩きである。登れない滝が 2 か所ほどあり、横の森にはいって高巻く。高巻きの急斜面には虎ロープが固定してあった。釣り人が結構入るのだろう。2 時間程で目的地の大焼砂沢に到着する。本流との分岐地点を集合場所とし、時間を決めて各自釣を始める。私はテンカラが振りやすい本流を釣り下る。振り込みにはだいぶ慣れてきたようで、2，3 回で狙った場所に毛鉤が落ちるようになったが、当たりはない。1 時間程で餌釣りに切り替える。今年生まれたと思われるチビ岩魚に遊ばれ、空揚げサイズが１尾釣れただけで終わってしまった。集合時間に少し遅れて合流点に戻ると、他のメンバーはすでにお茶も済ませているようで、魚を捌いているところだった。期待したほどの釣果ではなかったが、何とか今晩のおかずは確保できた。荒沢を戻って１６時頃、荒沢橋に帰り着く。宿までは車で５分程、早速露天風呂へ行くが、先客の女性ににらまれ（来るんじゃない目

線であった）内湯につかる。この温泉は薬湯として有名らしく、平日にも拘らず日帰り入浴の客が多い。また犬猫用の湯舟があり、犬を連れた人も多い。

今日の岩魚は塩焼きと空揚げだけだったが、遠藤さんが沢で採って来た新鮮なミズとソーセージの炒めものや、宿から漬物とミズの和え物のサービスがあり、十分満足できる食卓となった。明日は帰るだけなので、遅くまで宴会が続いた。途中抜け出して温泉に入りに行く。今の自分にはこの位の山遊びが一番楽しめていいなーと、一人温泉に浸り思うのであった。

コースタイム

２５日

荒沢橋	８：２０
休息（５７０M）	９：０５～９：２０
下シズノ沢先	１０：２０～１０：３５
大焼砂沢	１０：４０～１４：１０
休息（５７０M）	１５：１０～１５：３０
荒沢橋	１６：１０

沢で冷えた体を温める宮崎さん、国見温泉は緑の薬湯

岩魚の刺身、空揚げ、ホイール焼き、ミズの炒めもの（すべて現地調達である）

滝 子 山

佐 藤 健 一

日　　程　　平成２７年８月２９日
パーテイ　　佐藤（健）

夏に大月方面の山に日帰り登山に行きました。単身赴任先の川崎市から出かけたのですが、あいにく天気予報がぐずつき気味だったため、大月方面をめざして行き、雨だったらリニア中央新幹線の見学センターに行くことにしました。

当日は朝から雨が降りそうな天気のため、雨支度をしっかり整えて電車に乗りました。しかし、大月駅に着いても降り出す気配がなく、降らない場合にと考えていた滝子山（1620m）に行き先を変更し、中央本線笹子駅で降りました。真夏に、まして雨模様とあって、ほかに誰も駅に降り立ちません。

９時頃出発し、ふもとの集落を抜け林道を歩いていきます。真夏ですが時々小雨が混じるため気温が低く快適でした。

１時間ほどで登山口に到着。そこからは沢に沿ってひたすら登っていきます。登山道に新しい靴跡があったので、どうやら先行者がいる模様。でも、沢の音以外に気配もなく、自然に包まれた静かな雰囲気を楽しみながら木々の間を登っていきました。途中まったく人と出会うことはなく、熊よけに鈴などが必要とネットに出ていたのが頭をよぎりましたが、久しぶりの登山に息があがり、そのうち、それどころではなくなっていました。

正午ごろようやく山頂の尾根に到着。尾根は防火帯として幅20～30mほど切り開かれており、スキーのゲレンデのようで、大ぶりの黄色い花などが咲き残っていました。写真を撮って、あとでネットで調べましたが名前がわかりません。山頂手前からごつごつした山稜となり、登山口から約２時間３０分、息も絶え絶えに、太ももが痙るのをがまんしながらようやく山頂に着きました。

そこには東京方面から来た３人の女性の先客がいて「こんな時に登ってくるなんてお互い物好きねえ～」とあいさつをかわし、一面のガスを眺めながらおにぎりを頬ばりました。

しばし休憩のあと、そそくさと下山。しかし、既に筋肉痛が始まっていて、もっと低い山にしておけばよかったと後悔しつつ、一歩一歩太ももの痛みに耐えながら降りていきました。

途中から踏みあとが不鮮明になりおかしいと思ったのですが、登山者も少なくこんなものかなと下っていくと、予定とは違う林道に出ました。いつの間にか登山道を外れて作業道を下っていたようです。おかげで国道２０号線を１時間ほど歩くことになり、１６時に初狩駅に着きました。

今回はそれほど膝は痛まなかったのですが、２、３日は階段の上り下りに苦労するほどの筋肉痛となり運動不足を実感しました。でも、今年も銚子マラソンがんばるゾ！

ついに尺イワナを釣った（大行沢）

井 上 里 美

日　　程　　平成２７年９月４日～６日

パーティ　　宮崎、高橋(忠)、井上

今年一度も行けていない釣り目的の沢登りにやっと行くことができました。
直前に大雨が降り、計画していた恋ノ岐沢は広く水量がある為、安全で何度も行って釣りの実績のある大行沢に計画変更。

いつものように喘ぎながらいつもの入渓点へ、登山口の橋から入るパーティもいますが、ここからの方が楽で釣りがゆっくりできるからです。

他にも釣りパーティが居たのでずっと上で釣ることにし良いポイントもパス。大分上がってから竿を出すが当たりも無い。雨が降った後で条件は良いはずなのに・・・他の二人は釣っている。あきらめかけながら、すぐ目の前のポイントに無造作に入れ流すとガツンときた。「あ～あ　根がかった。イヤだな～。」と思った瞬間動いた。もしかしてと思いながら竿を上げるが重くてなかなか姿が見えず糸が激しく動きまわる。やっと空中に上げてみると予想以上に大きくてお刺身サイズだった。これは取り込みにぜったい失敗できないと焦っていたら、なんと竿先のイワナのすぐ横に宮崎さんがザックを降ろしているではないか、とっさに「タモでとって！」と叫んでいた。

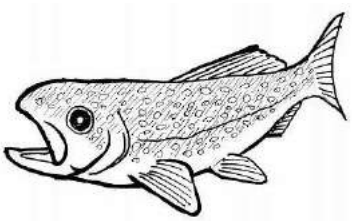
尺はあるイワナを持って足取り軽く上がって行くと、私が初めて自分の竿でイワナを釣った辺りに出た。先ずはと、下のポイントから竿を入れたらなかなかのサイズが２匹。そして最後の期待ポイントである大滝で尺近いイワナも釣れ絶好調であった。

宿泊予定の避難小屋に早く着いたので下山し、登山口のキャンプ場に泊まり、翌朝も２時間ほど釣りをして、今年唯一の私の渓流釣りは終わりました。

いままでにも尺イワナと言ってもいいサイズを釣ってはいましたが、３３センチ超えの正真正銘の尺イワナは初めてです。

今回は大物ねらいでドバミミズを庭から採ってきた成果だろうか？いや絶対そうだ。間違いない。

来年もがんばろう。



水無川 源次郎沢

原 田 裕 之

日　　程　　平成２７年９月２０日

パーティ　　原田、原田晃（小４）

今年初めての沢として、丹沢に行ってきました。昨年に続き子供と行ってきました。

２２時５０分頃鹿嶋を出て秦野を１時頃通過、大倉バス停付近までは良かったのですが、戸川林道へ入ると路面がひどく凸凹で、子供が目覚めてしまった。入渓口付近で仮眠して７時半頃出発した。初っぱなから沢への道を１本間違え、手前の道に入ってしまった。１０分くらい歩くが、道が尾根に上がりはじめおかしいと気づき、少し道を下ってからトラバース気味に斜面を下りていった。沢を１本横切って漸く予定の沢に出たが３０分くらいロスしてしまった。

ここで靴を替え遡行開始。暫く快適に遡行していく。困難ではないが、滝はほとんどロープで確保しながら登らせた。しかし、F6?で右岸の草付きをやっとの事で登りロープにぶら下がり沢床に下りた。後でルート図を見直したが、その写真と記憶が全く一致しない。１ヶ月の間にここまで忘れるとは。F10 の手前で左側の沢に入ってしまったのだろう。ずっとガラガラのルンゼが続き、ようやく草原となり大倉尾根に出たが、花立山荘よりずっと下の様だった。ここまで戸沢出合いから３時間ほどの見込みであったが高巻きの途中で子供にセルフビレーを取らせたりしながら登ったりしたので５時間以上かかってしまった。下りは大倉尾根から天神尾根を通り戸沢出合いへ戻った。大倉尾根は登山者は多かったが、天神尾根はほとんど歩く人は見かけず、道も少し荒れていた。

時間的には巻きやガラガラの斜面の登りが多く感じた。子供の感想としては沢は非常に楽しかったが、下りの尾根がつらかったようです。

山 伏 岳

高 橋 充 夫

日　　程　　平成２７年９月２０日～２１日
パーティ　　遠藤、佐藤、佐久間、高橋(充)

小見川で待ち合わせ、午後 4 時すぎに出発。常磐道、東北道をひた走り、宮城県北端に位置する『道の駅はなやま』の駐車場の一角に仮泊のテント設営。見上げると満天の星空で、明日の好天を期待しつつ仮眠。翌朝は上天気。前日に調達しておいたコンビニのおにぎりなどで簡単な朝食を済ませた後、車を走らせる。しかし、目的地の泥湯温泉に向かう途中で、徐々に雲が空を覆い、色も濃くなり、何やらポツポツと降りかかるものが・・・。それでも徐々に天気は回復するとの予報を信じ一路、山伏岳登山口へ。

朝 7 時 40 分、登り始めは雨だった。私は初めて合羽が役に立つと思い、密かに喜んでいた。実は去年銀嶺山岳会に入会して以来天気には恵まれて、一度も合羽を取り出したことがなかったのである。雨の中の山歩きとはどんなものか。想像以上にぬかるんで滑りやすくなった足元、雨に濡れた枝葉、雨天ゆえの湿気で合羽は内も外も早くもじっとりとしてきた。また、以前の大雨のせいか、登山道はえぐれたようになっている所や道を塞ぐように倒れ掛かった大木の下をくぐらなければならない所などもあった。それでも、食用になるキノコを見つけては採取したり、「これは大丈夫か？」などキノコ談義をしたりしつつ、楽しく山頂を目指した。

山頂ではあいにくガスが立ち込め、視界は広がらず眺望は望めなかった。この後『高松岳』に向かう予定だったが断念し、今日の宿泊場所である『とことん山キャンプ場』へ。山を下りる途中で青空が顔をのぞかせるまでに天気が回復していたのでテント設営もそこそこに、周辺の沢に下りた。目指すは今日の夕食のメインになるはずの大イワナである。

1 時間ほど竿を振るっただろうか。私は釣果なしだった。聞けば同行の 3 人も同様とのこと。残念ながらここで納竿し、キャンプ場に戻る。冬はスキー場にもなるこのキャンプ場は規模が大きく、露天風呂まで併設されている。我々のテントの周囲はいつの間にかたくさんの家族連れのテントが設営されていた。休日を家族でキャンプをして過ごす。何かいい光景である。夕食前に風呂に行く。3 つある浴槽は、湯温が微妙に違っており、これも楽しむことができた。山で採れたナメタケは夕食の味噌汁の具になった。中には、調理中に「これは怪しい」と不採用になったキノコもあった。

翌朝は 9 月というのに、吐く息が白く見えるほど涼しい中で迎えた。さすが東北秋田である。私の地元とは確実に半月以上は先を行っている。もっと暖かな上着を持ってくるべきだったと勉強させられた。暖かいコーヒーと味噌汁が有り難かった。

帰る途中、秋田県と岩手県の境にある須川湖に立ち寄り、湖面に映る周囲の景色を眺め、その後栗駒山下の遊歩道をゆっくり散策。ところどころに吹き出す湯気、立ち込める硫黄の匂いの中、よく整備された木道の上を大勢の登山者が行き交っていた。いつか紅葉の盛りの時期にまた来てみたい、そう思わせる眺めであった。晴れた空に始まりかけた紅葉が映え、大満足のひと時になった。

個人的な意味づけをした山。語ってもいいかな？

小 山 田 泰 幸

日　　程　　平成２７年
所　　感　　小山田

５月４日、福島中央部の二岐山1,544m。面白くない？　私は面白いです。

18年前、小さかった子供たちを連れて（今の眼で見れば）冒険ごっこみたいにして、５月の残雪や山頂付近のガスに悩まされながら歩いた二岐山。快適どころか必死に帰ってきたような印象ばかり。それでもいい思い出になったのは、渓流脇の露天風呂に入れたから。

今は下山時にあたる時間帯は清掃中で入浴できない時間設定にしてあるので、二岐温泉からは歓迎されていない感じ。

18年ぶりの二岐山。子供たちは大人になり、妻と二人になってしまって、同じ山を歩く。前回は女岳～男岳と北側から周回したが、以前と同季節の再登で、北斜面には残雪があるだろうから、今回は面倒を避けて南側から男岳へ往復しただけ。でも、かつて歩いた道なのか、記憶にあるような、ないような。

始め高曇りだったが、山頂ではほぼ晴れ。広域地図を持ってくればよかった。でも飯豊山は白く神々しく、掛値なしに会津の盟主。飯豊に行きたい。でもまとまった日程がとれない。他にも那須などは方角でわかるが、奥会津の山々などは、個々の遠近感がアタマに入ってない。前回はガスの中だったが、二岐山は展望の山と納得。

登山口までの林道は、用心して手前から歩いたが、車でも行けそう。ただし電子レンジぐらいの岩が転がっている場所も。

ところで、泊まりは羽鳥湖の湖畔キャンプ場を使った。トイレは水洗だし、子供連れファミリーも騒々しくない。このキャンプ場のいちばんの美点は（不特定多数には伝えたくないが）、野鳥の声である。夜明け、辺りが次第に明るくなるにつれ、「音の宝石箱をひっくり返したような」とでも形容したくなる時間が訪れる。名が「羽鳥湖」だけなことはある。

６月に二度、筑波山。１日と22日。（両日とも月曜日？）ＰＴＡや文化祭の代休日である。家族も世間も仕事。自分だけ「真空」のような時間を利用しない手はない。準備などない発作的な思いつきなので、２時間で麓に着ける山、つくば。20年くらい昔、某高校ワンゲル部で練習に使ったルートで、途中からあいまいになってしまった南西方向からの道を、はっきり把握したいという動機。歩いてみるといろいろな枝道があり、飽きない。

８月９日、蝶ヶ岳2,677m。妻にも登れる北アルプス。常念と、どっちにする？　……で、蝶。ほんとうの動機が、槍・穂高を見るためだから、どっちでもいい。

11年前にひとりで常念〜蝶を歩いているが、強烈な風雨になぶられ、蝶ヶ岳ヒュッテそばで稜線と別れたとたんに風の陰に入り、ほっとして駆けるように三股登山口まで下ったので、特に下山はあっという間、な印象しか残っていない。しかしアルプスはアルプス。改めて歩いてみれば、他の山域とはけた違いの規模である。

運動不足で足がつる妻をだましだまし登りついた稜線は、約束どおりの大展望。あとは半日眺め暮らす想定だったが、誤算は快晴ゆえの強烈な日差し。身の置き所がない。テントを張っても暑くて中にいられないし、傘も用意していたが、専用日傘ではないので、見せかけの日陰。おまけに勉強不足で、星空を楽しみそこねた。夜の冷え込みを軽視してしっかりした防寒具を用意しなかったので、テントから首を出して少し見上げただけ。調べておけば、流星群まで楽しめるVIP席だったのに。

８月23日、阿武隈山地の大滝根山1,193m。夏休みだろ、というのは世間の偏見。日曜日でないと、部活動指導が休めないのだ。さらにこの日、妻が旅行に行っていて、「おれは自由だ！」。この日を選んだのは偶然ではなく、必然。

しかし、大滝根は人を連れていきにくい山になってしまった。住人の日常生活圏以外は「除染」されていないのだ。私ぐらいの歳になれば、たまたま放射性物質が体内に入ってしまっても、結果的に、ガン死と自然死の区別がつかないほどだから、開き直ってしまうが、前途のある人には、この山域は微妙……。

他にもいい山があるだろうに、という考えも一理ある。個人事情を告白すると、この山を家族で歩けないかなと、下見に行った日が、2011年３月10日……。（木曜日!?

Yes！　この前の週に教え子たちを卒業させ、使えずに腐りかけていた有給休暇を消化するチャンスだった。翌11日は卒業式の代休日だったが、あえて有給を取って出かけようと考え、それが幸いした。もし11日に阿武隈方面に出かけていたら、まともに帰れたかどうかわからない。）

「福島県の山」という登山ガイドには、大滝根山は「厳冬期でも積雪は10cm程度」とある。行ってみたら、2011年は例年と違ったか、倍以上はあるように見えた。下見だから、行けるところまで行って引き返そうと歩いてみたら、岩尾根らしき場所の取り付きまで行けてしまった。

装備の関係でそこで引き返したが、翌日の大震災を境に、この山は封印せざるを得なくなった。あの日、自分はどのあたりまで登っていたのか。心残りにいつか決着をつけたい、と思っていた。

さて今年、８月23日は小雨まじり。それでもこんなバカバカしい外出は、いつでもできるわけではない。行ってみたら、山中で出会った人は、一人だけであった。天候のせいかもしれないが、日曜日なのだ。ほぼ、見捨てられた山、かもしれない。変わらないのは、山頂一帯を占領している自衛隊ばかり。「ペラペラ石」まで足を延ばしてみた。晴れていたら、展望がよさそう（原発が見える位置）。途中、道標はかろう

じて残っているが、刈り払いがされていないためか、あと数年で道が草に埋もれてしまいそうだ。懸案の、「到達地点」だが、ガイドブックにある「クサリ場」だったようだ。雪の有無にも惑わされず、地形に覚えがある。思いのほか、かなりの上部まで肉薄していたのだ。あの日、そんな高みまで行く気はなかったのに。雪の上は、木の根と石ころの道より歩きやすくて、思わず知らず登り過ぎたかもしれない。

地元の山岳会（存続しているとすれば、だが）は、この阿武隈最高峰を、これからどうするつもりだろうか。妙な因縁が生じた私も、この山のために何か関わりを持てないかという心境である。

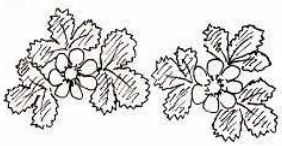
おまけ。シルバーウィークの、９月21日。蓼科山2,530m。露骨に、展望が目当て。昨年、八ツの天狗岳に本沢温泉側から登って楽しかったので、秋には八ヶ岳方面、と決めていた。アプローチしやすい、という理由もある。ただし、往路、久々に中央道を使ってみて、反省。行楽シーズンの中央道で、交通集中と事故が重なって、出発前に車のナビが示した所要時間の倍かかった。

泊まりに使ってみた「夢の平キャンプ場」（立科町の施設）は、悪くない。一人300円である。便所・水道・炊事場がある。便所も「蝶ヶ岳ヒュッテの便所」より上等だ。利用者もバイク旅の人たちを主力に、20人程度いた。（敷地は、それほど広くない。サッカーコートの半分程度）。今年は気象のせいか、虫が異常発生していたが、動きがおとなしく、テントには這い上がってこないので、私は気にならなかった（虫が苦手な人はＮＧ）。

蓼科山は、七合目・馬返しから、という最短距離の登山道。楽勝である。山頂からの展望も、申し分なし（南側半分は雲に隠されていたが）。槍穂高も時々姿を見せた。じつは息子（会社員・神奈川居住）が同じ日、槍への「表銀座」尾根上を歩いている。視線だけのエールを送った。

シルバー登山客はもちろん、小さな子供連れ家族が、他山域に比べて非常に多い。我々も、子供が小さい時にこの山に連れてくればよかった、などと無意味な後悔をする。というよりも、蓼科山は、改めて紹介するほどの山ではない。

そこで話は始まりに戻る。どうもひとり勝手に楽しんでいる山ばかりで、「ぎんれい」向けではないなあ、と、どうしても思えてしまう。月例会で報告するような陽気になれないのです。ごめんなさい。



フィールドワーク報告

小 林 恒 平

日　　程　　平成２７年

パーティ　　小林（恒）

今シーズンは山行にまったく参加できなかった。仕事自体の忙しさもあるが、フィールドワークが本格化してきたからだ。

ここではその中の一つである哺乳類の巣箱調査について報告したい。巣箱調査とは、森林内に木製の巣箱をひたすら架け、月一で巣箱を利用した動物がいるかを確認するという非常に単純な調査である。現在、鴨川の清澄山周辺に 80 個の巣箱が設置してあり、普段の調査では 1 泊 2 日でそれらの巣箱をすべて確認する。清澄山は主峰の妙見山で 383mと低い山なのだが、急峻な上に尾根の分岐が多く、森林が深いため、かなり迷いやすい。さらに最近のシカの増加に伴ってヤマビルが大量発生しており、毎回厳重に対策していても被害者が出る。そのような悪条件をかき消してくれる大きな魅力の一つは野鳥の豊富さで、5 月ごろからオオルリ、キビタキ、クロツグミ、そしてサンコウチョウが競うように歌っており、足元のヤマビルさえ見なければ天国のようだ。哺乳類ではニホンザル、シカ、イノシシ、ニホンリス、タヌキ、ノウサギ、そしてそして外来種のキョンが観察でき、森の豊かさを感じる。

第 98 回　春の市民バス山行

荒 船 山

高 橋 恵 美 子

日　　程　　平成２７年５月２３日～２４日
パーティ　　水野、佐藤、遠藤、高橋(忠)、内田、
宮内、高橋(恵)、高橋(充)、一般１４名

登山口へ向かう車窓から見えた荒船山は確かに緑の海に浮かぶ空母のようで、一度目にしたら多分忘れない。けれど近い割には登る機会は少ない。

２３日　昼前「妙義道の駅」到着。今夜の宿は「国民宿舎裏妙義」。入るまで時間の余裕があるので、ここで各自３時間の自由行動を楽しむ事となる。

歩いてすぐの妙義神社は国の重要文化財に指定されているそうで、建物に施された彫り物は素晴らしいものだった。ここは妙義山中間道と大の字への登山口にもなっているが、今回は登らず、高台にある「ふるさと美術館」へ移動。絵画鑑賞した後、大きな窓から真正面の妙義山を眺めてゆったりとした時間を過ごしました。

２４日、午前５時国民宿舎を出る。６時過ぎ内山峠出発。穏やかなハイキング日よりだ。辺りは広葉樹の柔らかな新緑が美しく、所々に咲くつつじが愛らしい。

登山道は整備されていて歩きやすいが、小さなアップダウンが続く。鋏岩修権道場跡と呼ばれる大きな岩の下を右折し、さらにアップダウンは続く。２時間程で一杯水通過。滑りやすい岩場をトラバース気味に登ってゆくとやがて平坦な笹原に出る。稜線の一角のようだ。広葉樹と笹の緑が美しく気持ちのいい場所だ。やがて方位盤のある艫岩展望台に到着。断崖絶壁の上だが冊も何も無いので、怖くてとても下は覗けない。

記念撮影の後、最高地点である経塚山に向かう。１キロ程続くアップダウンとも言えないような緩い上り下りの登山道は、経塚山までほぼ真っ直ぐ。自転車でも楽々通れそう。道を横切る小さな沢（細いとは言えこんなところに流れ？）の笹原の奥にちらっと赤く咲いているのは何だろうか？　クリンソウだ。少し進むと今度は左手の湿地の周りに群生していた。皆写真を撮って楽しむ。大きなズミの木は真っ白な花で満開。オレンジのレンゲツツジ、新緑の柔らかな緑と、笹原だけのイメージだった頂上部は色彩豊かだった。何だか得した気分だ。紅葉もさぞかし綺麗にちがいない。以前ここに来たのは確か 11 月。樹々の枝に付いた霧氷がとっても綺麗だった記憶があるが、どちらかと言えばモノトーンの世界、この新緑の綺麗さは予想できなかった。やっぱり季節を変え何度も来ないとわからない。

星尾峠への分岐を直進し、急な登山道を一頑張りで小さな祠の有る経塚山頂に到着、９時５５分。ここで昼食を兼ねて大休止とする。

３０分程休んで、来た道を戻る。展望台手前の分岐から相沢登山口へ向け下山開始。林道に出てから三ツ瀬までが予想外に長く、迎えのバスに乗ってホッとしたのでした。

荒船の湯で汗を流し、下仁田道の駅で買い物を楽しんだ後帰路につきました。天候に恵まれ新緑の山を楽しむ事が出来ました。

第 99 回　秋の市民バス山行

(裏磐梯）猫魔ヶ岳、雄国山

水 野 照 雄

日　　程　　平成２７年１０月１７日～１８日
パーティ　　佐藤、内田、高橋(忠)、遠藤、高橋(恵)、宮内、水野、高橋(充)、岡野、佐久間、 一般１４名

小見川を出る時は小雨が降っていたが、福島県に入る頃から青空が広がり良い天気になった、磐梯熱海ＩＣで高速を降りて、母成峠を越えて中の沢温泉へのルートを行く、紅葉した山間の道で車窓からの景色を楽しむ事が出来た。桧原湖畔のハイキングコース入り口でバスを降り、湖畔の舗装された道を歩く、紅葉は見頃で、太陽の角度が良いせいもあり、赤や黄色が輝いて思わず見とれるほどきれいであった。アケビの実を食べたり、おしゃべりしながらの、のんびりした散策が楽しめた。裏磐梯桧原湖畔ホテルは湖畔の森の中にあり、良い宿であった。

翌日は八方台登山口を 6 時 30 分に歩き出す、紅葉の盛りは過ぎ、茶色くなったブナの森だが、独特の幹模様が美しい、なだらかな登り道を 1 時間程歩いた眺めの良い所で朝食にする。猪苗代湖方面は一面の雲海である、東には秀麗な磐梯山の姿があり、何とも良い眺めであった。猫魔ヶ岳の頂上で記念写真を撮り、猫石へ向かう、猫石はかなり大きな岩峰で、飯豊連峰や吾妻連峰が雲上に浮かび、眺めの良い所であった。ここから雄国沼への下りになる。森を抜けて雄国沼に出ると景色は一変して広々した風景になる。秋景色の山々に囲まれ、青空を映した雄国沼は思っていたより大きく感じた。休憩舎で大休止を取り、お茶にする。雄国山への登りは南斜面でやや暑く感じたが、登るほどに雄国沼の風景が開け、気持ち良い。頂上には木組みの展望台があり、ここに上って最後の展望を楽しむ。ここからよく整備された道をラビスパ裏磐梯へ向けて下山した。下の方のブナは黄葉が見頃であった。

今回の山行は良い条件に恵まれた。登山道はよく整備されており、特に急な所も無く、カサカサと落ち葉を踏んで歩き、アケビ、白玉の実，山ぶどう、グミ、などを食べながらの登山はいかにも秋山らしく、紅葉の森、雲海の上に浮かぶ山々、雄国沼の風景と変化もあり、十分に秋の山を楽しめたのではないかと思います。

宿、バスの手配や弁当の調達、ビデオの制作上映、写真撮影、登山時のペース配分など多数の会員の協力により、今回も無事、市民バス山行を実施出来ました。参加してくれた会員の皆様、ご苦労様でした。

↑猫魔ヶ岳山頂

↑ 雄国山山頂

↓ ホテル前の桧原湖と磐梯山

↓ 雄国沼

チーフリーダー記

体のバランスが悪くなって来ました

宮 崎　睦

４月２５日に発生したネパール地震では、エベレストのベースキャンプ付近で雪崩が発生し、登山者やポーター等が多数死傷し、「平成２７年９月関東・東北豪雨」では、鬼怒川の堤防の決壊などにより、広域で被害が有りました。

夏は猛暑でしたし、冬の積雪も地方によっては多く交通に支障が出たりしていますし、集中豪雨の発生も年毎に多くなっている様に感じます。

今年の山行を見直してみると、天候に影響された山行が多かった様に思います。自然の事なので、無理な計画で行くことは無謀ですので日程を延期したこともあったのですが、余り天候には恵まれませんでした。

特に８月のお盆を過ぎてからは、台風等の影響による集中豪雨や、秋雨前線の活発化による長期の天候不順で、計画を変更しても中々思うような山行はできませんでした。

今年は、天候の悪化や体力の衰えにより、日帰りの山行で現地に宿泊する時は、テント泊ではなくバンガローやロッジ泊が多くなりました。

やはり、テントとは違い室内が広いので快適性が増し、のんびりと過ごす事ができました。

歳を重ねることにより、自分自身ではまだまだ大丈夫で何とか頑張って行ける、と思う気持ちも有りますが、現実は厳しく体の方が動かなくなっているこの頃です。

今年になって痛感するのは、沢行のザックを背負っての登りでザイルを出す箇所は、日帰りの荷物位ならリードで登る自信は有りますが、重いテン泊の荷物を背負ってはリードで登る自信は無くなってきました。情けない話で笑われてしまいますが、体のバランスが悪くなってきたようです。

最近は新入会員も少なくなり、高齢化社会に進んでゆく日本社会と同様に、会員の平均年齢もどんどんと上昇しています。

中々斬新な山行計画をすることもできず、以前の計画では１泊２日で行っていた山行を、１日延期し２泊３日で行く計画にするなど、年齢を重ねた事によって可能となった、余裕の時間を楽しみながらの山行になってきています。

また、腰や股関節の痛みが出てくる事もあるので、無理をしない山行になっていますが、山岳会に入会しなければ知り合えなかった会員の方々と、これからも山を楽しんでいきたいと思っています。

銚子市山岳協会について

金 井 秀 明

市町村には体育協会、いわゆる体協があります。そのなかに野球協会やサッカー協会、陸上協会、柔道協会、テニス協会、グランドゴルフ協会等々さまざまな組織があり（銚子市には28協会）、山岳協会ももちろん存在します。

その山岳協会に銀嶺山岳会も所属しているのですが、銀嶺以外の団体がないので、実質的に銚子市山岳協会イコール銀嶺山岳会となっているのです。

体協に所属しているということは、市の行事にたまには協力しなくてはなりません。半島駅伝やハーフマラソンの係員をつとめたり、新年会や各種講演会などに出席しなければならない義務も生じます。協力してくださる会員のみなさん、ありがとうございます。

また、市から補助金も支給されています。10年前は70,000円でしたが、市も厳しい財政状況なので年々減額され、今年度は 40,000 円でした。（加盟費が一割引かれるので実際は36,000円）

年２回企画している市民バス山行は、この山岳協会の行事でもあります。市民に開かれた行事を行うのも山岳協会としての存在意義であるからです。補助金も市民バス山行の補填に使っています。

その市民バス山行も来年の 100 回目で終了する予定ですが、そうなると山岳協会としての行事がなくなってしまいます。再来年からどういう形で山岳協会を維持していくか、脱退の可能性もあると思いますが、いろいろ考えていかないといけません。

いずれにしても、会員みんなで話し合っていきたいと思います。

＊参考までに市からの補助金額（H27年度）

野　球	¥70000	柔　道	¥51000	ラグビー	¥32000	婦人ﾊﾞﾚｰ	¥40000
水　泳	¥45000	剣　道	¥64000	テニス	¥39000	ｱｰﾁｪﾘｰ	¥20000
陸　上	¥70000	弓　道	¥55000	ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ	¥40000	Gｺﾞﾙﾌ	¥40000
ｿﾌﾄﾃﾆｽ	¥44000	空　手	¥20000	サッカー	¥20000	ﾄﾗｲｱｽﾛﾝ	¥10000
卓　球	¥70000	山　岳	¥40000	ゴルフ	¥40000	ﾎﾞｳﾘﾝｸﾞ	¥37000
ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ	¥70000	体　操	¥40000	ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ	¥40000	太極拳	¥30000
ﾊﾞｽｹｯﾄ	¥20000	ヨット	¥35000	スキー	¥32000	社交ﾀﾞﾝｽ	¥20000

立原茂樹さんとの思い出

宮 崎　睦

元会員の立原茂樹さんの体調がすぐれないとは聞いていましたが、訃報を知った時は驚きました。

山行記録を見ると、Ｈ１３年に立原さんが入会、８月に立原さん、氏家さん、元会員の遠藤（和）さんの４名で、那須の井戸沢に行ったのが、立原さんとの初山行でした。

以後、主に立原さん、氏家さんと私の３名での山行記録が数多くあります。

Ｈ１５年９月の会津駒ケ岳と中門岳の中間に突き上げる御神楽沢は、前年の９月にも計画しましたが天候が悪くて中止となり、再度のチャレンジとなりました。延３日間の行程で、２日目は天候が崩れて雨となったり、スノーブリッジの下を通過したりとハードな山行でしたが、達成感の有る沢でした。

ゴールデンウィーク前の唐松岳で、朝方に急に天候が悪化し、テントが吹き飛ばされそうな吹雪と雷で下山できず、小屋明けの準備中の唐松山荘に避難し１日停滞したこともありました。

２人で行った、恋ノ岐川も思い出深いものが有ります。滝つぼですっと竿を出して釣りをする姿は、まさにプロの釣り師で、続けざまに岩魚を釣りあげたのが忘れられません。

まだまだ、数々の思い出が有りますが、体調が悪くならなければ、ずっと一緒に山に行けたのにと思うと、残念でなりません。

ご冥福をお祈り申し上げます。　　合掌

上　西ゼン　　下　三ッ峠

新 人 紹 介

氏　　名　：　佐久間 美智子
職　　業　：　パート
生年月日　：　昭和 32 年 5 月 27 日
趣　　味　：　家庭菜園、バドミントン、昼寝
登 山 歴　：　４～５年
行きたい山：　日本アルプス（見ているだけで心がきれいになる気がする）
入会の動機：　以前入会していた頃のメンバーが元気に活躍して「居た！」からです。
　　二回目の入会、よろしくお願いします。

＊諸事情により、住所や電話番号等の情報は不掲載といたします。

◎　ホームページを活用しよう

みなさん､銀嶺のホームページを見ているでしょうか？　佐藤健一さんが立ち上げ、管理してくれているＨＰです。ＨＰやブログをやったことのある方ならわかると思いますが、最初は勢いで始めても、それを維持管理していくのはたいへんなことです。

しかし、今の社会では欠かせないものですし、ここ数年はＨＰを見て当会に問い合わせもきたりするので、つくった意義があると思います。

掲示板も、宮崎さんや高橋忠さんが計画や報告を書き込んでくれていますが、もっと書く方が増え、いい利用ができればと思いますので、みなさん遠慮せずに活用していきましょう。

ぎんれいＨＰアドレス　　http://www.asahi-net.or.jp/~cj4k-stu/

表紙のことば

金 井 秀 明

山の幸といえば、最近のぎんれいでは大漁続きのイワナや秋のキノコなどがありますが、個人的には春の山菜が好きです。表紙に描いたのは、タラノメ・コシアブラ・ヤマウド・コゴミ・ネマガリタケ・ミズナ・フキノトウです。だから今年の山行記録のなかでも、いちばんうらやましいのは杢蔵山です。数々の山菜料理、たまらないですね。

ぎんれいでは最近は東北の山が多いですが、私がよく行っていた南信州の山々でも下山して里に近くなってくると、こういった山菜がかなりあって楽しかったです。あのころ山菜採りの穴場だと思っていた場所は今もあるのかなあ。

平成２７年度　役員

会　　長	古 川 進 一
副 会 長	水 野 照 雄　金 井 秀 明
ﾁｰﾌﾘｰﾀﾞｰ	宮 崎　睦
リーダー	佐 藤　実　水 野 照 雄　高 橋 恵 美 子
	遠 藤 博 昭　原 田 裕 之
事 務 局	金 井 秀 明
会　　計	内 田 章 子　永 井 陸 夫
バス山行	水 野 照 雄
庶務連絡	佐 藤 健 一
装　　備	金 井 秀 明
会報編集	金 井 秀 明　水 野 照 雄　高 橋　忠
	内 田 章 子　高 橋 恵 美 子　高 橋 充 夫

ふ み あ と

平成 26 年

10 月 29～ 1 日	菅名岳（きのこ山行）・・・・・・	水野、遠藤、高橋恵、内田、高橋忠、高橋充、宮崎、沼橋
11 月 14～16 日	日留賀岳・釈迦ヶ岳・・・・・・・	宮崎、高橋忠
28～30 日	大林山（忘年山行）・・・・・・・	水野、遠藤、内田、高橋忠、佐藤、宮崎

平成 27 年

1 月 11 日	飯縄山・・・・・・・・・・・・・・	原田、他１名
29 日	雲竜渓谷・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠、井上
2 月 13～15 日	宝台樹（スキー合宿）・・・・・・	佐藤、永井、関、高橋充
〃	鹿俣山（スキー合宿・山班）・・・	宮崎、高橋忠、遠藤、内田佐久間、水野
3 月 13～15 日	舟形山（蛇ヶ岳）・・・・・・・・	遠藤、高橋忠、宮崎
23～24 日	加波山、足尾山・・・・・・・・・	宮崎、他１名井上、高橋恵、
25～27 日	蔵王（不忘山）・・・・・・・・・	高橋忠、宮崎
4 月 15～17 日	守門大岳・・・・・・・・・・・・・	佐藤、水野、宮崎、高橋忠、遠藤
29～ 2 日	鳥海山・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、内田、高橋忠、遠藤、水野
5 月 3～ 4 日	二岐山・・・・・・・・・・・・・	小山田、他１名
8～10 日	燧岳・・・・・・・・・・・・・・	高橋忠、宮崎
17 日	御岩山（岩トレ）・・・・・・・・	遠藤、高橋忠、高橋充、宮崎
23～24 日	荒船山（市民バス山行）・・・・・	永井、宮内、水野、宮崎、高橋恵、内田、佐藤、遠藤、高橋忠、高橋充、一般 13 名
6 月 1&22 日	筑波山・・・・・・・・・・・・・・	小山田
5～ 7 日	杢蔵山（山菜山行）・・・・・・・	水野、佐藤、遠藤、高橋忠、内田、佐久間、宮崎

23～25 日	仏沢・烏川・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠
7月 2～ 5 日	摺上川・・・・・・・・・・・・・	高橋忠、遠藤、宮崎
12～15 日	早池峰山・岩手山・・・・・・・	宮崎、他３名
16 日	大雪山・旭岳・・・・・・・・・	宮内
20 日	富良野岳・・・・・・・・・・・	原田、他１名
31～ 2 日	日光白根山・男体山・・・・・・	宮崎、他１名
8月 6～ 9 日	森吉山（夏山合宿）・・・・・・・	水野、佐藤、内田、高橋忠、遠藤、高橋充、井上、佐久間、宮崎
8～ 9 日	蝶ヶ岳・・・・・・・・・・・・・	小山田、他１名
23 日	大滝根山・・・・・・・・・・・	小山田
23～26 日	秋田駒・荒沢・・・・・・・・・	遠藤、高橋忠、宮崎、水野
29 日	滝子山・・・・・・・・・・・・・	佐藤健
9月 3～ 5 日	大行沢・・・・・・・・・・・・・	高橋忠、井上、宮崎
8～ 9 日	裏磐梯、バス山行下見・・・・・	高橋恵、水野、内田
17～18 日	三国山・・・・・・・・・・・・・	水野、他４名
20 日	丹沢、源次郎沢・・・・・・・・	原田、他１名
20～21 日	蓼科山・・・・・・・・・・・・・	小山田、他１名
29～ 1 日	栗駒山・・・・・・・・・・・・・	水野、他１名
10月 17～18 日	猫魔ヶ岳・雄国山・・・・・・・（市民バス山行）	佐藤、内田、遠藤、高橋忠、宮内、水野、高橋恵、岡野、高橋充、佐久間、一般 14 名

・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・

編　集　後　記

長年お世話になった“天兼”が営業終了してしまいました。一抹の寂しさとともに時代は動き、変化していきます。あんまりついていけないなあ、いまだガラケーだし。

金　井　秀　明

年々体力が落ちているのはわかっているが、今年はそれを痛感した年である。少しでも長く山を楽しむために、日々のトレーニングをしなければと思いました。また、今年は天候に恵まれない年であったが、まずまず楽しい一年を過ごすことができました。

高　橋　　忠

今年も、いい山、楽しい山旅を満喫できた。これも皆さんのサポートがあってのこと。感謝、感謝である。　ただ、高橋(恵)さんが昨年までのように一緒でないことが寂しい。

内　田　章　子

ここ数年、山行回数は減ってはいたが、今年はとうとうバス山行のみになってしまった。そんな時に限って仲間達はいいとこに行ってるようで、ちょっと悔しい。

高　橋　恵　美　子

会員になって２年目。山の経験はまだまだ全然少ないですが、少しずつ、深みにはまっていきそうです。今年は渓流竿を手に入れてイワナを一匹、釣り上げることができました。会報『ぎんれい』を読みながら、人それぞれの山への想いに感じ入っています。

高　橋　充　夫

鳥海山の山スキーは天国のように楽しかった。杢蔵山から見た月山、鳥海山、新庄の町の景色も忘れられない。今年も良い一年でした。

水　野　照　雄

「ぎんれい７１号」

発　　行　〒288-0837
千葉県銚子市長塚町３－１４８
銀 嶺 山 岳 会
TEL. 0479(22)7698

http://www.asahi-net.or.jp/~cj4k-stu/

編　　集　編集委員
発行月日　平成２７年１２月１日
印　　刷　フルノライフベスト株式会社

INREI